

令和3年度生涯学習・社会教育総合調査研究事業

生涯学習に関する県民の意識調査

報告書

令和4年3月

青森県教育委員会

はじめに

本県を取り巻く社会環境は、人口減少と少子化、高齢化の一層の進行、将来訪れる超高齢化時代、グローバル化の更なる進展など、大きく変化しています。また、タブレットやスマートフォンに代表される通信技術の急速な普及により学びの在り方が大きく変化すると共に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、地域の祭りや各種研修・講座の延期・中止に代表されるように、本県の地域社会の在り方や生涯学習・社会教育の取組にも大きな影響を与えています。

このような現状を踏まえ、一般県民を対象に、新たな学びの現状を把握するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により県民の生涯学習がどのように影響を受けたのかを明らかにすることを目的に調査を実施しました。本調査では、学習活動の実施状況、学習活動に対する意欲・希望、地域活動への参加状況、生涯学習・社会教育に関する情報との接点、ICTの利用状況等について、様々な角度から質問を設け、研究を行いました。

本調査の研究結果は、新しい時代の生涯学習・社会教育の推進の在り方についての検討に生かしていくとともに、県内市町村においても、生涯学習・社会教育に係る各種の施策や事業構築に活用されることを期待します。

最後に、本調査の対象者としてアンケートに御回答いただいた県民の皆様に心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

令和4年3月

青森県教育庁

生涯学習課長

渡部 泰雄

目 次

第 1 章	調査の概要	1
1	調査の名称	
2	調査の趣旨	
3	調査対象	
4	調査方法	
5	回収結果	
6	研究顧問	
7	比較対象の過去調査概要	
第 2 章	調査結果	2
1	調査結果の見方	2
2	調査回答者の属性	2
3	学習活動の状況、意欲、希望	3
4	地域活動、社会貢献活動、ボランティア活動の状況	9
5	情報との接点	14
6	新しい生活様式など	16
第 3 章	考察	22
I	青森県民の電子メディア利用と生涯学習行動	22
II	全ての県民が生涯を通じて学ぶことができる環境づくりに 向けて	31
第 4 章	資料	40
○	調査結果単純集計表	40
○	調査票	53

第1章 調査の概要

1 調査の名称

生涯学習に関する県民の意識調査

2 調査の趣旨

青森県教育委員会教育長から諮問された内容の1つである「多様な人々のつながりと新しい技術の活用による生涯学習・社会教育の推進」について、コロナ禍にある現在の県民の意識の変化や現状を知るために平成27年度に実施された「学習活動に関する県民の意識調査」を基にその後の変化について考察する。また、オンラインやICT (Information and Communication Technology) など、新たな学びの現状を把握するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により県民の生涯学習がどのように影響を受けたのかを明らかにすることで、これからの新しい時代の生涯学習・社会教育推進のための施策の企画立案に資することを目的とする。

3 調査対象

一般県民のうち20歳から79歳以下 3,000人

4 調査方法

全市町村の住民基本台帳から20歳以上79歳以下の県民を抽出し、人口比に応じて配分した人数を等間隔で抽出する。なお、調査票の印刷・発送・回収、調査結果の集計業務は、業者委託により実施した。

- ・調査業務委託先 株式会社サンブラッソ・エイティープイ
- ・調査票の発送 令和3年7月20日
- ・回答期限 令和3年8月6日

5 回収結果

有効回答数(率) : 843 (28.10%)

調査不能数(率) : 2,157 (71.90%)

不能内訳 住所不明 23人(1.07%)、回答辞退連絡 3人(0.14%)、白紙回答 0人(0%)
無反応 2,131人(98.79%)

6 研究顧問

- ・柏谷 至 氏 (青森大学社会学部 教授)
- ・越村 康英 氏 (弘前大学教育学部 准教授)

7 過去調査の概要

- ・調査の名称 学習活動に関する県民の意識調査
- ・調査対象 20歳以上70歳未満の一般県民 3,000人
- ・実施主体 青森県教育委員会
- ・実施時期 平成28年1月20日～2月3日
- ・回収結果 有効回答数(率)…877人(29.23%)

第2章 調査結果

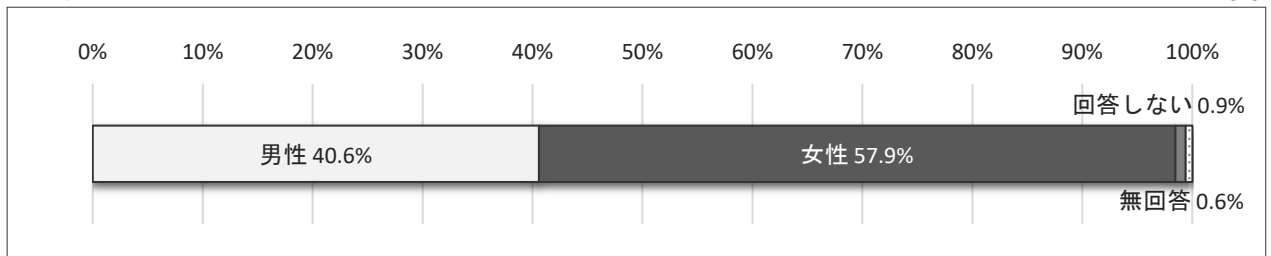
1 調査結果の見方

- ・グラフ中の「n=」は、質問に対する回答者数を表している。
- ・結果数値（パーセント）は、小数点第2位を四捨五入しており、合計が100%にならないこともある。

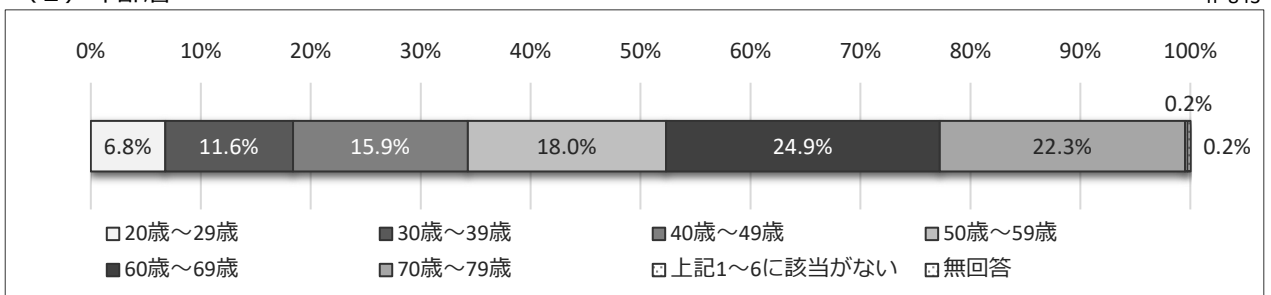
2 調査回答者の属性

問1 あなたの性別と年齢層及びお住まいの地域について教えてください。

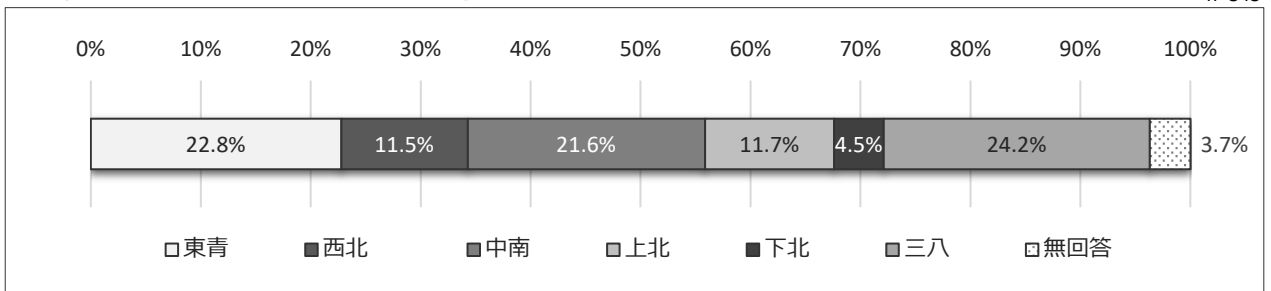
(1) 性別



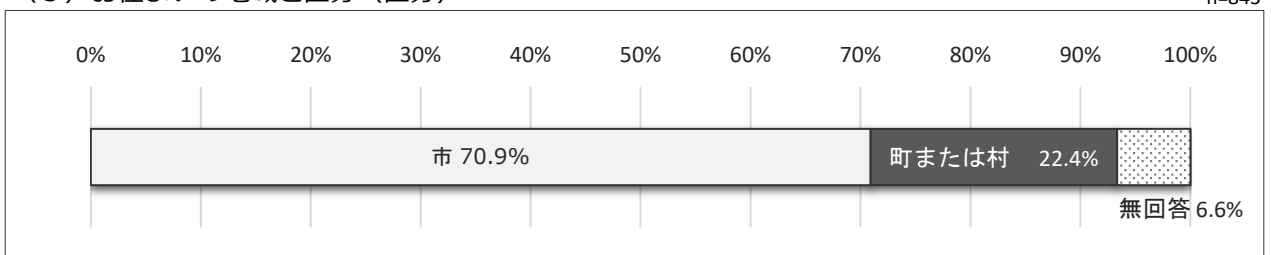
(2) 年齢層



(3) お住まいの地域と区分（地区名）

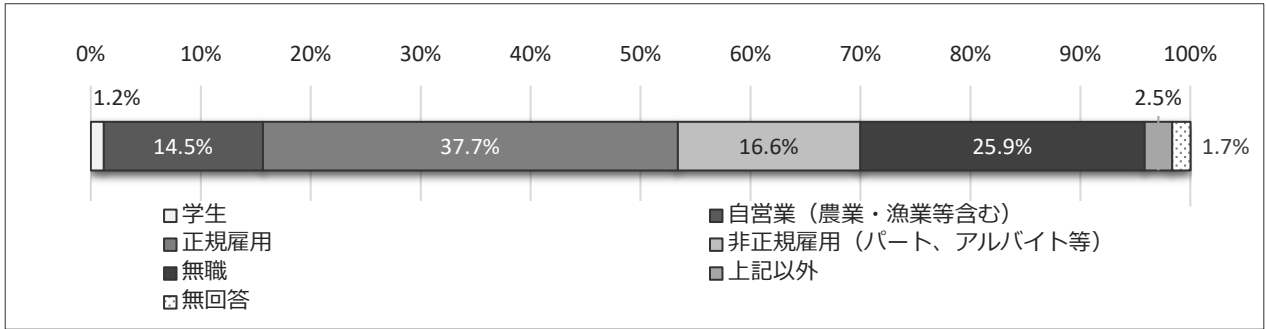


(3) お住まいの地域と区分（区分）



問2 あなたの仕事と最後に卒業した学校について教えてください。（仕事について）

n=843

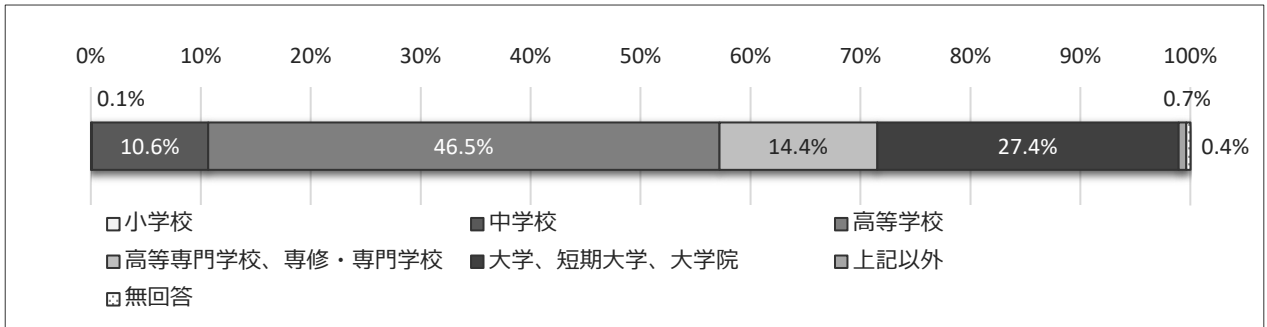


上記以外

・会社役員（5名）・非常勤役員 ・不動産貸付 ・役員 ・就労支援B型 ・あづまーる

あなたの仕事と最後に卒業した学校について教えてください。（最後に卒業した学校）

n=843



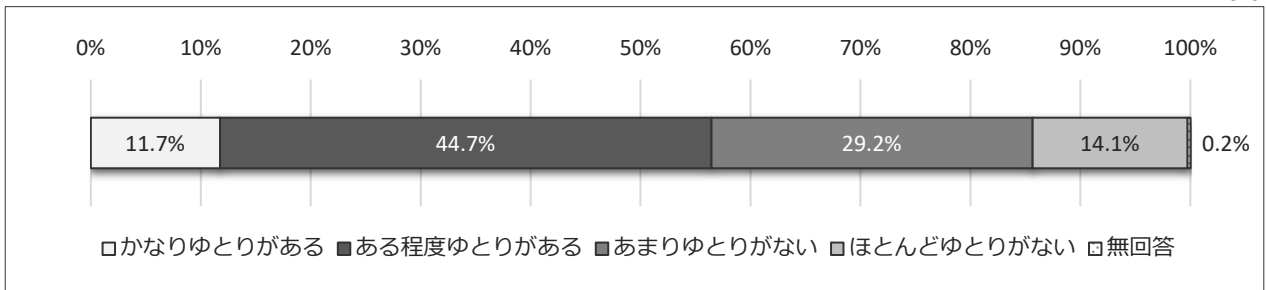
上記以外

・養護学校

3 学習活動の状況、意欲、希望

あなたは、現在好きなことをする時間的、経済的なゆとりがありますか？（時間的なゆとり）

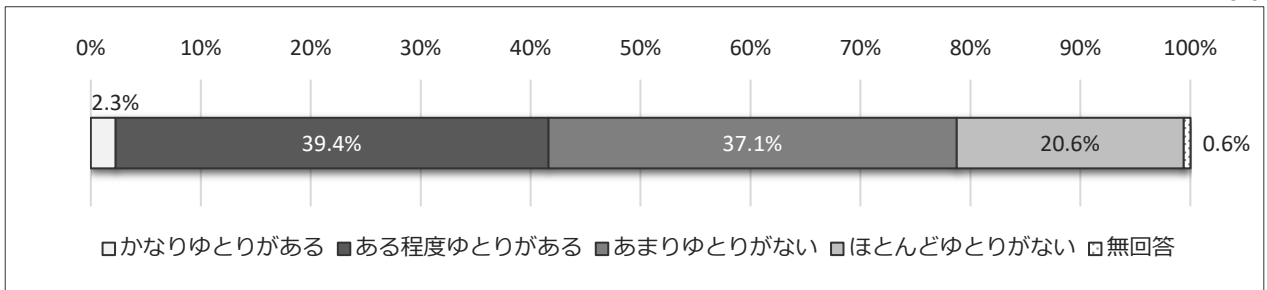
n=843



時間的なゆとりについては、「かなりゆとりがある」と「ある程度ゆとりがある」を合わせると56.4%が「ゆとりがある」と回答している。一方、「あまりゆとりがない」と「ほとんどゆとりがない」を合わせると43.3%が「ゆとりがない」と回答している。

あなたは、現在好きなことをする時間的、経済的なゆとりがありますか？（経済的なゆとり）

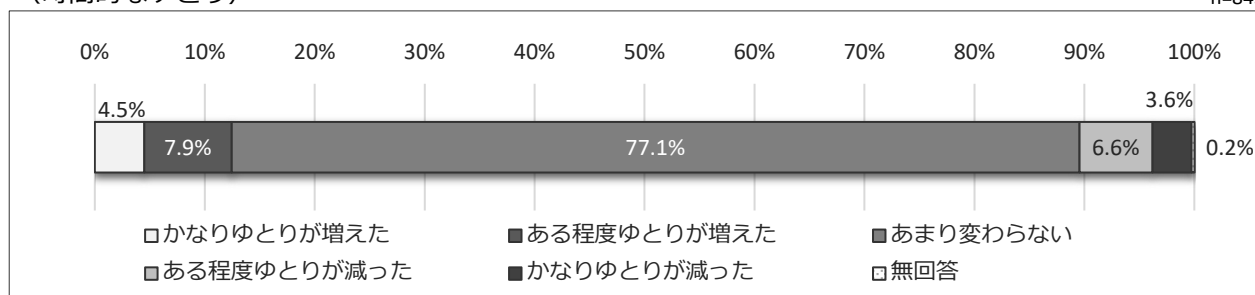
n=843



経済的なゆとりについては、「あまりゆとりがない」と「ほとんどゆとりがない」を合わせると57.7%が「ゆとりがない」と回答している。一方、「かなりゆとりがある」と「ある程度ゆとりがある」を合わせると41.7%が「ゆとりがある」と回答している。

問4 新型コロナウイルス感染症の拡大前に比べて、時間的、経済的なゆとりは変わりましたか？
(時間的なゆとり)

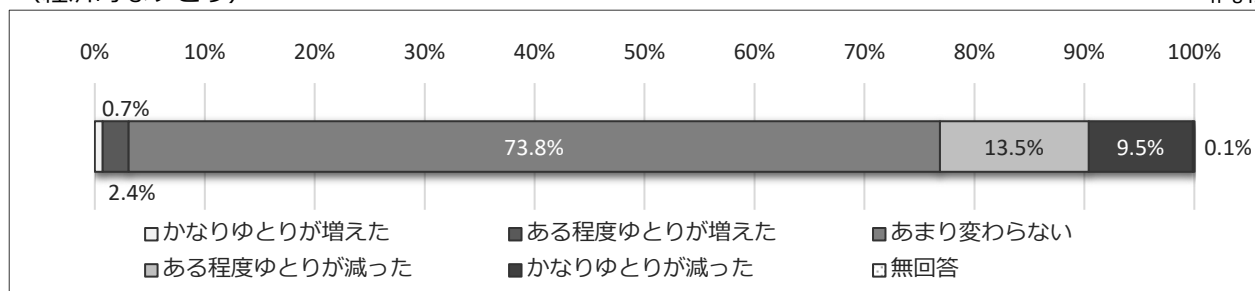
n=843



新型コロナウイルス感染症の拡大前と比べ、時間的なゆとりの変化を聞いたところ、「あまり変わらない」が77.1%と最も多い。

新型コロナウイルス感染症の拡大前に比べて、時間的、経済的なゆとりは変わりましたか？
(経済的なゆとり)

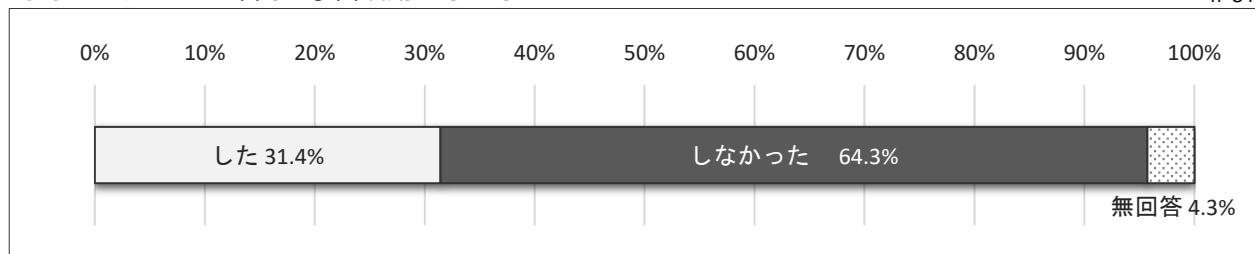
n=843



新型コロナウイルス感染症の拡大前と比べ、経済的なゆとりの変化を聞いたところ、「あまり変わらない」が73.8%と最も多い。

問5 あなたは、この1年間に学習活動をしましたか？

n=843

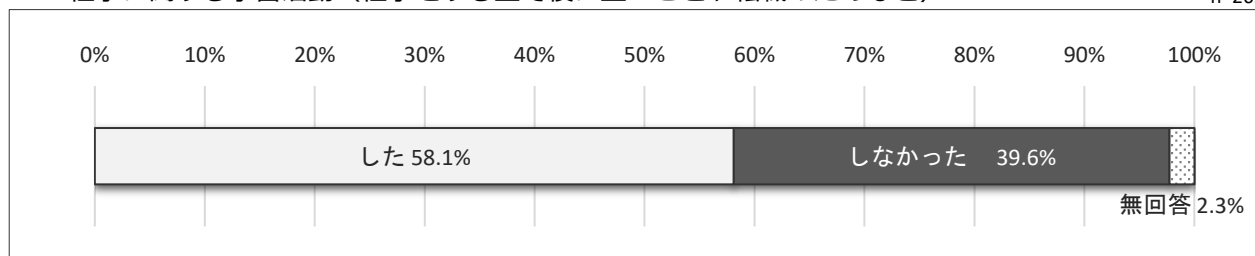


この1年間に学習活動をしたか聞いたところ、「しなかった」が64.3%、「した」が31.4%であった。

問6 次の1から5のそれぞれの分野ごとにお答えください。

1 仕事に関する学習活動（仕事をする上で役に立つことや転職のためなど）

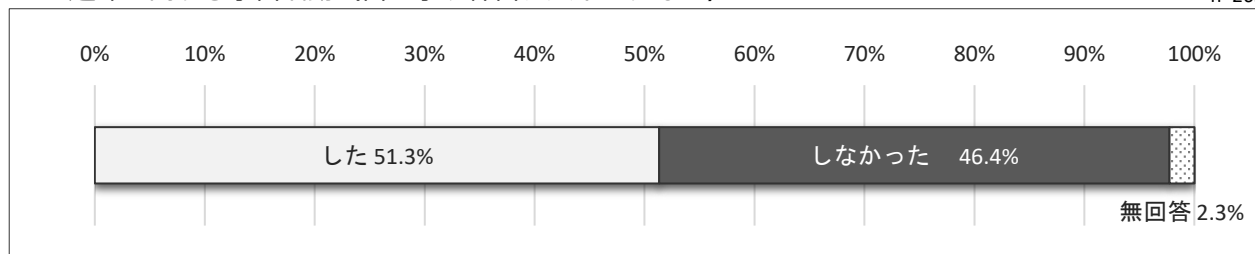
n=265



問5で「した」と回答した方に、仕事に関する学習活動の有無を聞いたところ、「した」が58.1%、「しなかった」が39.6%であった。

2 趣味に関する学習活動（習い事や練習、スポーツなど）

n=265



問5で「した」と回答した方に、趣味に関する学習活動の有無を聞いたところ、「した」が51.3%、「しなかった」が46.4%であった。

3 生活に関する学習活動（料理教室や健康、子育てに関することなど）

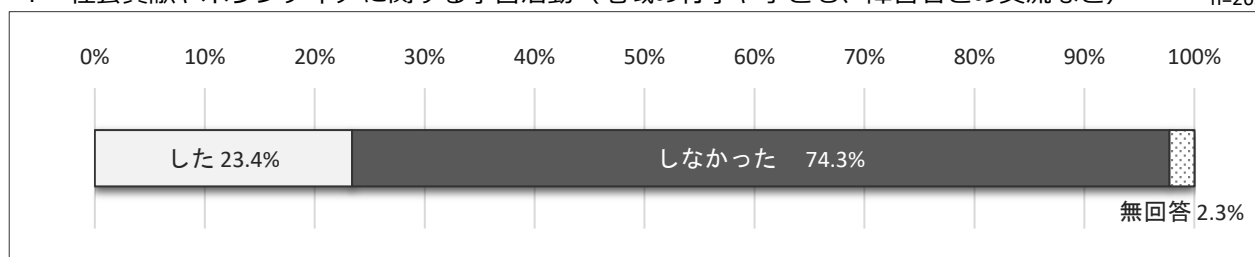
n=265



問5で「した」と回答した方に、生活に関する学習活動の有無を聞いたところ、「しなかった」が67.5%、「した」が30.2%であった。

4 社会貢献やボランティアに関する学習活動（地域の行事や子ども、障害者との交流など）

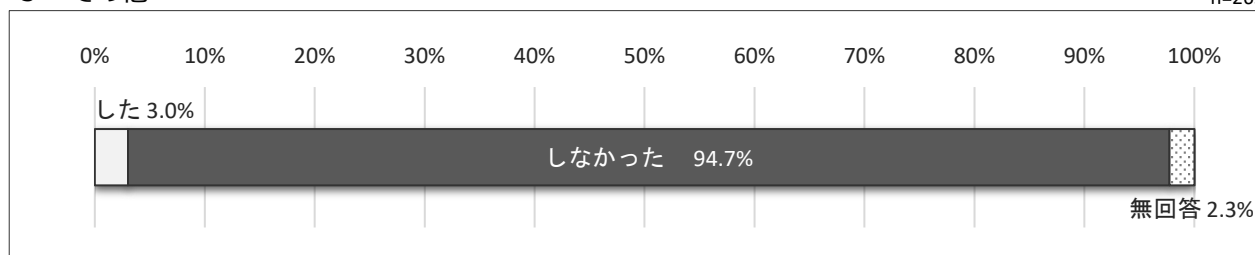
n=265



問5で「した」と回答した方に、社会貢献やボランティアに関する学習活動の有無を聞いたところ、「しなかった」が74.3%、「した」が23.4%であった。

5 その他

n=265



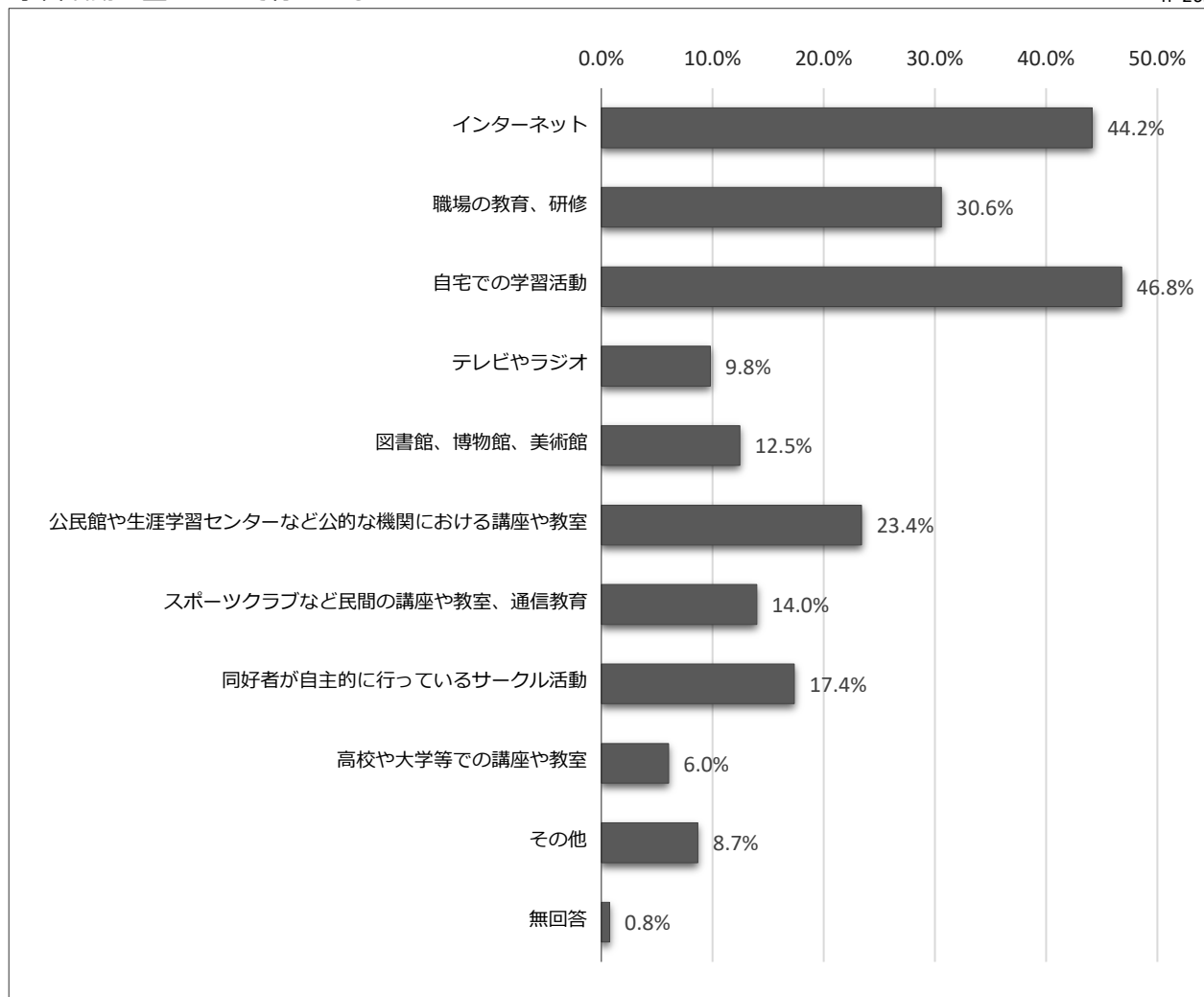
その他

・創作作家活動のため ・野菜作りに関して、日々勉強しています ・仏教についての講義 ・英語学習 ・スマホの使い方 ・特になし

問5で「した」と回答した方に、その他の学習活動の有無を聞いたところ、「しなかった」が94.7%であった。

問7 学習活動は主にどこで行いましたか？

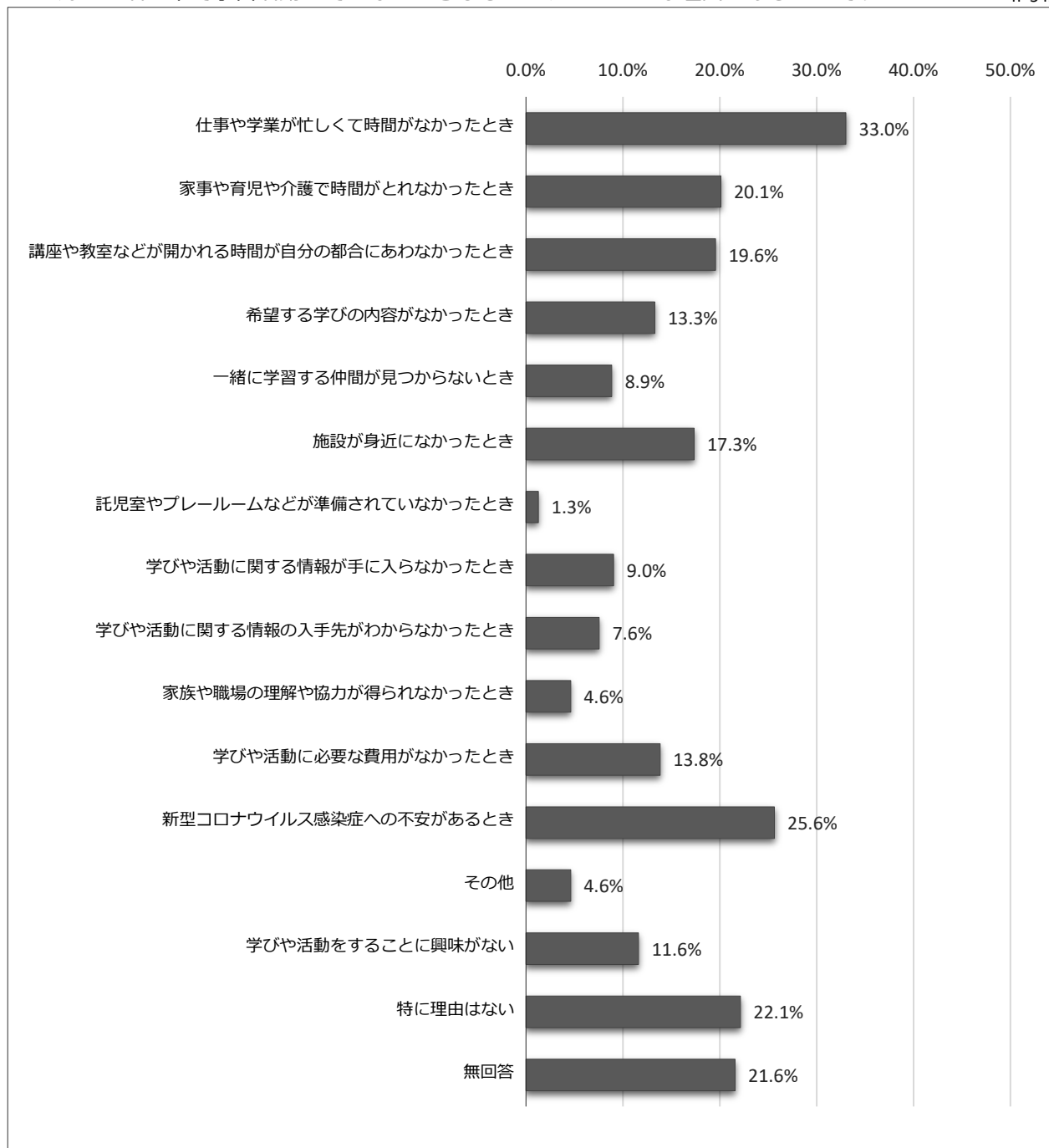
n=265



問5で「した」と回答した方に、学習活動は主にどこで行なったかを聞いたところ、「自宅での学習活動」が46.8%と最も多く、「インターネット」が44.2%と次いだ。

問8 ふだんの生活の中で学習活動ができないと感じるのは、どのような理由があるときですか？

n=542



その他

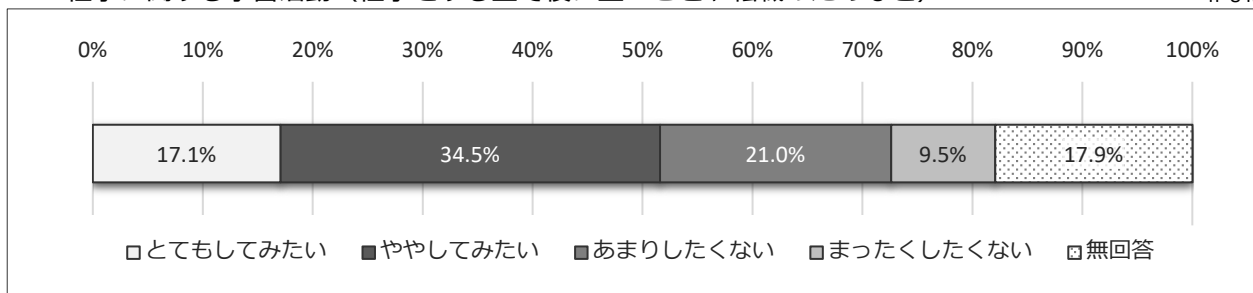
・病気があるため（3名）・長年病気してしまった ・入院が続いたため ・健康上の事由 ・足、腰が悪くてできません ・うつ病のため ・パーキンソン病のため ・身体障害だから ・体力的に自信がない、術後だから ・移動手段がない ・学習活動をする気持ちの余裕がないため ・意欲の欠如 ・関心がなかった ・団体行動を好まない ・年齢的なもの ・公的教室が利用できない時 ・里帰り出産で孫2人と娘の面倒を4か月見ていたから ・リタイヤ後にやろうと考えている ・韓国ドラマ ・子どもを誰かに預けてまで自分の趣味をすることへの罪悪感と周りの目。自分が子どものことより自分のことを優先していいのか？という葛藤があります。

問5で「しなかった」と回答した方に、ふだんの生活の中で学習活動ができないと感じる理由を聞いたところ、「仕事や家業が忙しくて時間がなかったとき」が33.0%と最も多く、「新型コロナウイルス感染症への不安があるとき」が25.6%と次いだ。

問9 あなたが今後、学習活動をする場合、次の1から4のそれぞれについて、どの程度関心がありますか？

1 仕事に関する学習活動（仕事をする上で役に立つことや転職のためなど）

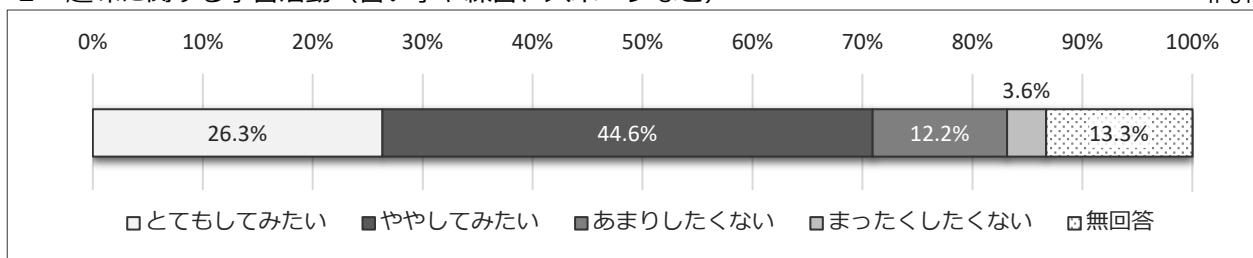
n=843



仕事に関する学習活動への関心度を聞いたところ、「とてもしてみたい」と「ややしてみたい」を合わせると51.6%が「してみたい」と回答している。

2 趣味に関する学習活動（習い事や練習、スポーツなど）

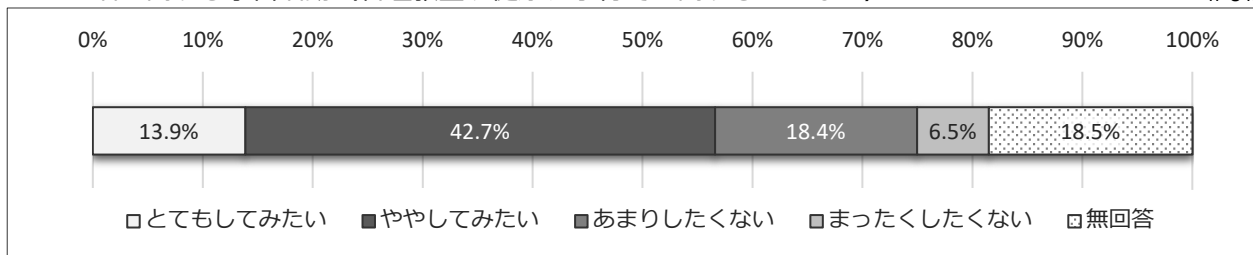
n=843



趣味に関する学習活動への関心度を聞いたところ、「とてもしてみたい」と「ややしてみたい」を合わせると70.9%が「してみたい」と回答している。

3 生活に関する学習活動（料理教室や健康、子育てに関することなど）

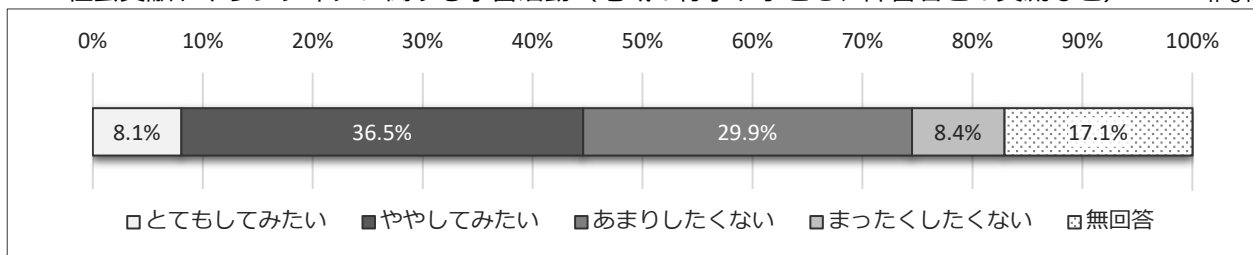
n=843



生活に関する学習活動への関心度を聞いたところ、「とてもしてみたい」と「ややしてみたい」を合わせると56.6%が「してみたい」と回答している。

4 社会貢献やボランティアに関する学習活動（地域の行事や子ども、障害者との交流など）

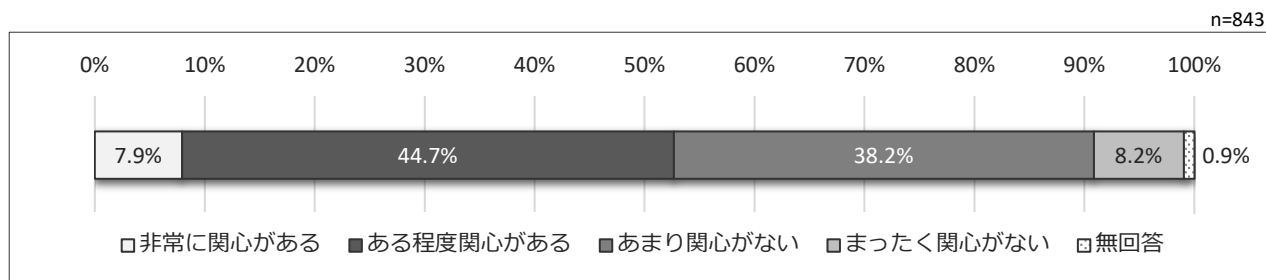
n=843



社会貢献やボランティアに関する学習活動への関心度を聞いたところ、「とてもしてみたい」と「ややしてみたい」を合わせると44.6%が「してみたい」と回答している。一方、「あまりしたくない」と「まったくしたくない」を合わせると38.3%が「したくない」と回答している。

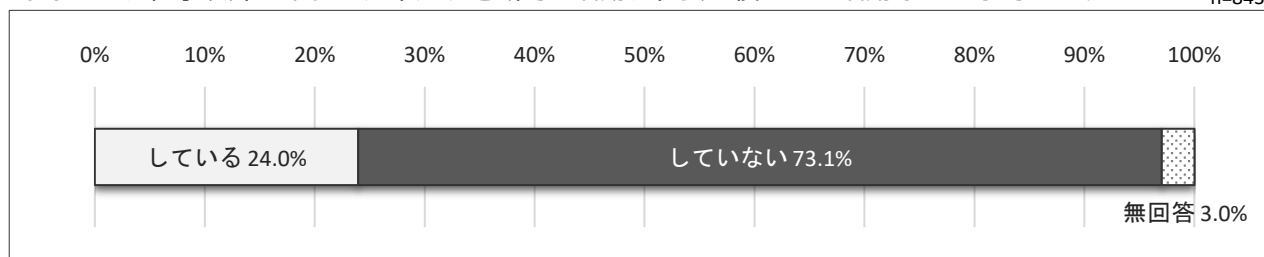
4 地域活動、社会貢献活動、ボランティア活動の状況

問10 あなたは、仕事以外のボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動などに関心がありますか？



仕事以外のボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動への関心度を聞いたところ、「非常に興味がある」と「ある程度興味がある」を合わせると52.6%が「関心がある」と回答している。

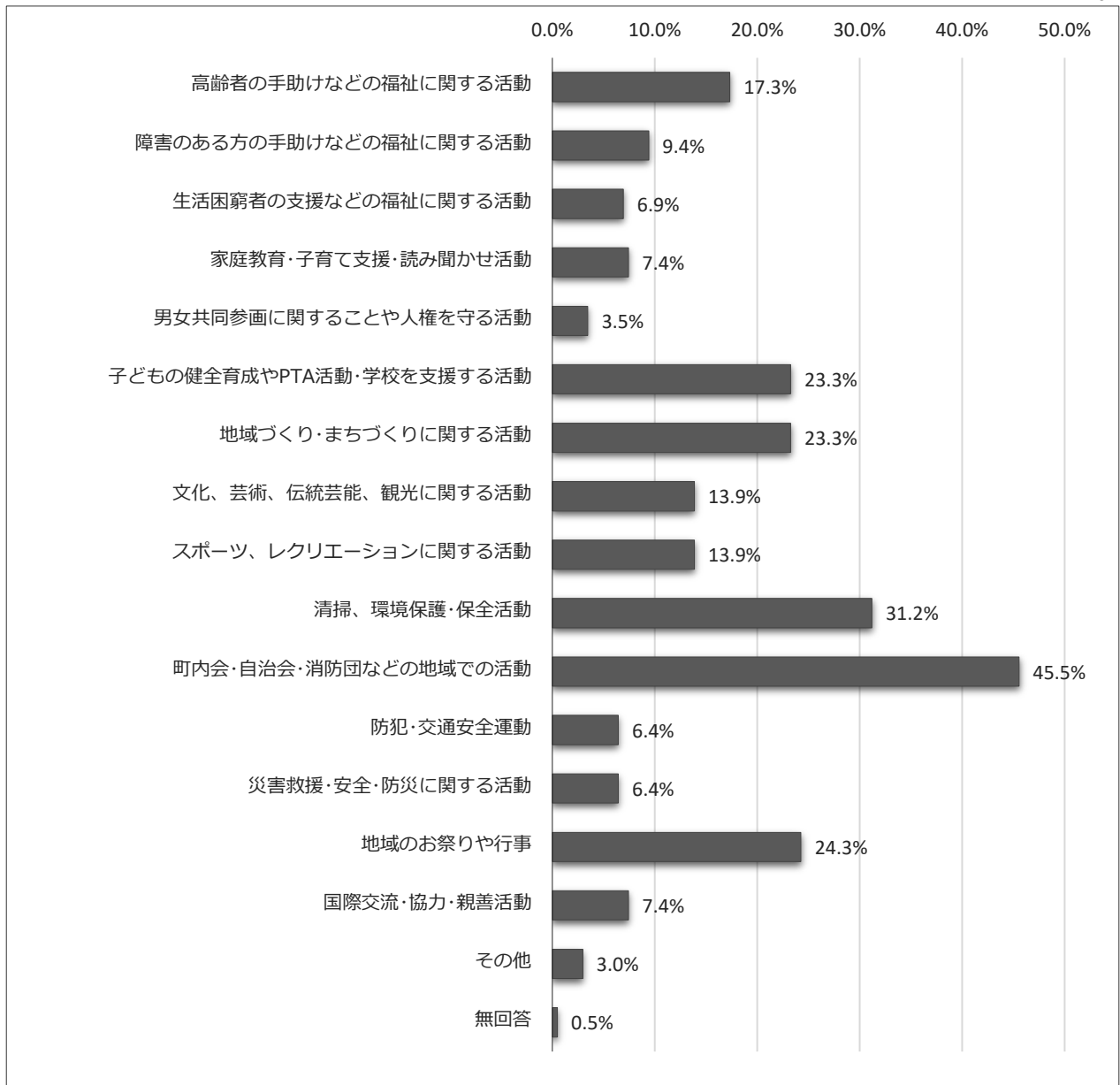
問11 あなたは、仕事以外のボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動などをしていますか？



仕事以外のボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動をしているか聞いたところ、「していない」が73.1%、「している」が24.0%であった。

問12 あなたは、仕事以外で、どのようなボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動をしていますか？

n=202

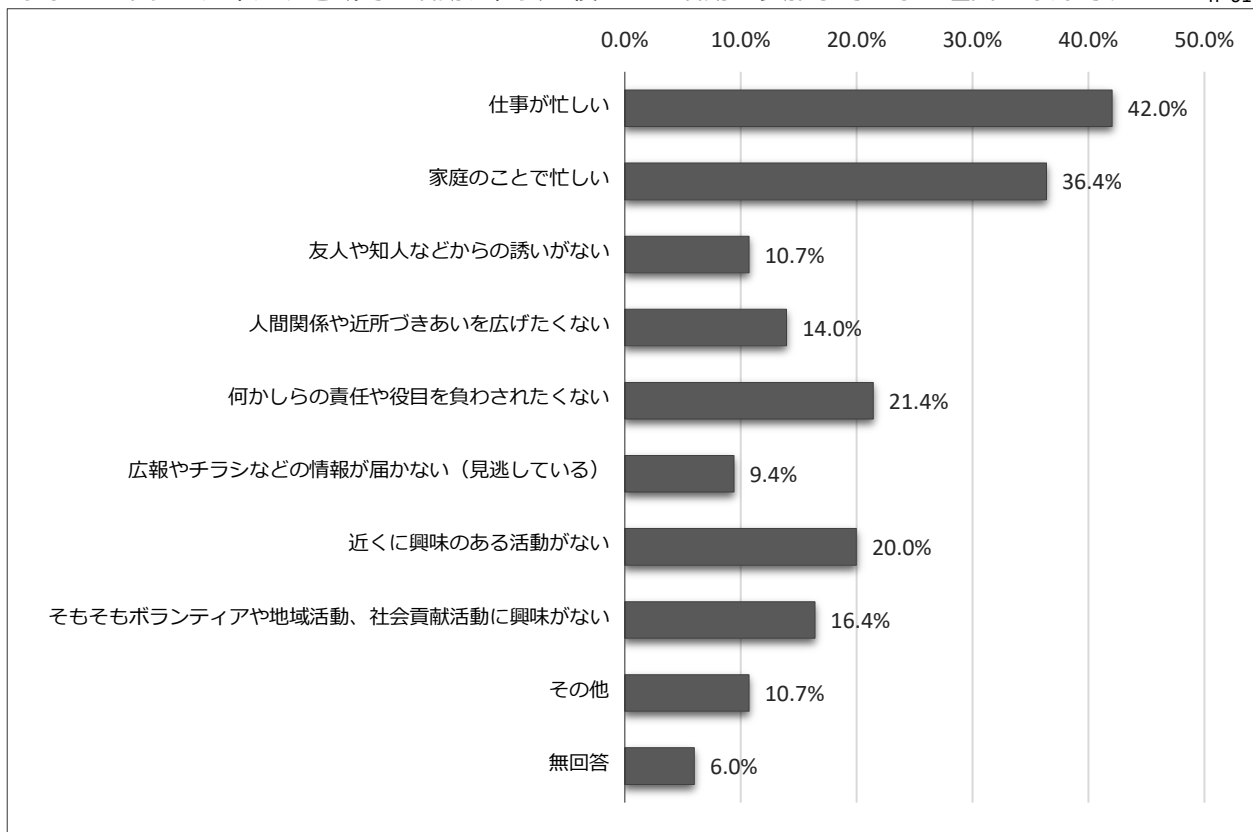


その他

・百歳体操で健康づくり活動 ・献血 ・老人クラブ ・第2種社会福祉法人、保育園 ・PLANインターナショナルへの寄付

問11で「している」と回答した方に、仕事以外で、どのようなボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動をしているか聞いたところ、「町内会・自治会・消防団などの地域での活動」が45.5%と最も多く、「清掃、環境保護・保全活動」が31.2%と次いだ。

問13 あなたがボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動に参加していない理由はなんですか？ n=616



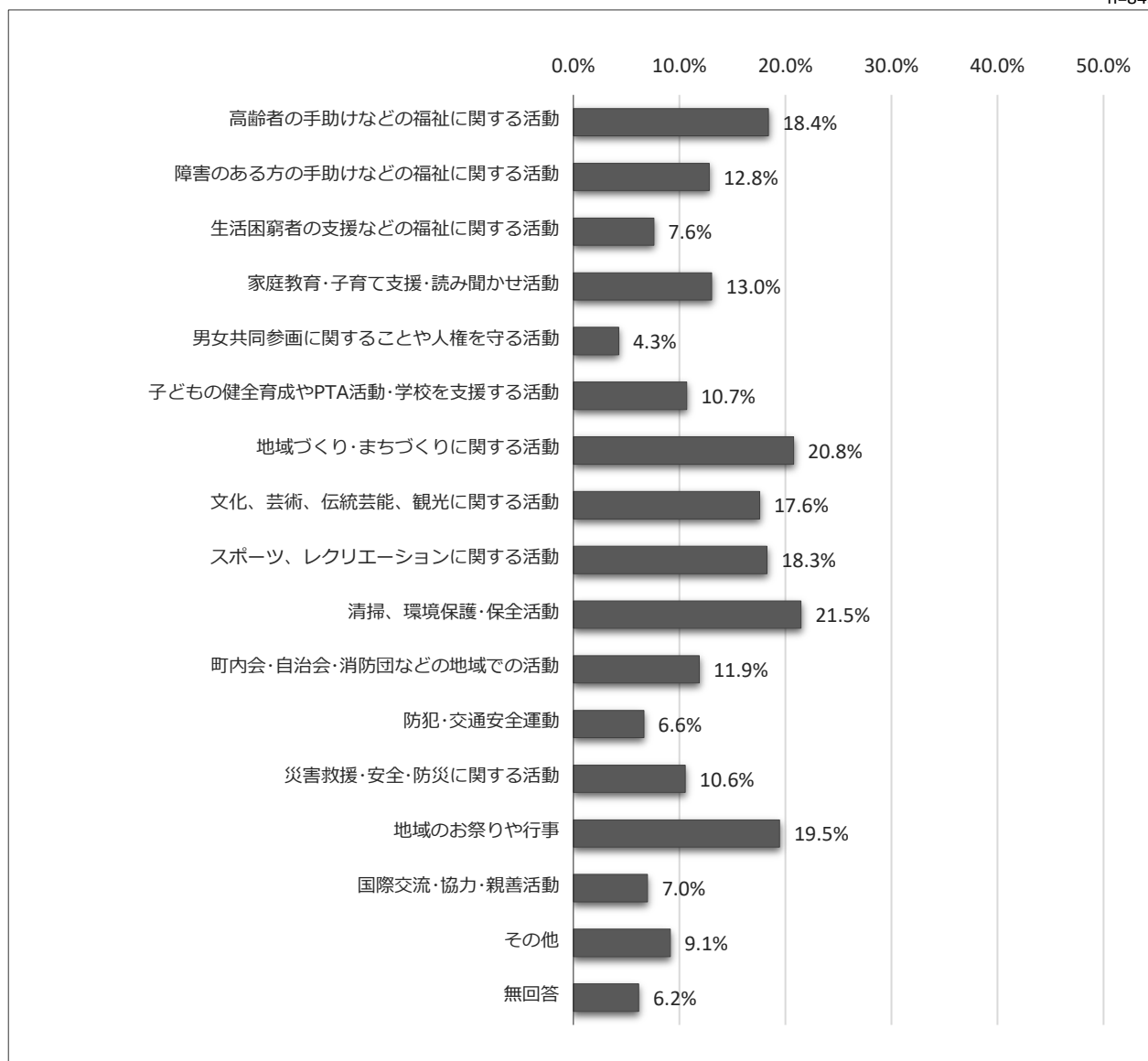
その他

・体力がない（4名）・病気のため（3名）・体調が悪い（3名） ・障害があるから（2名） ・パーキンソン病のため（2名） ・病院通い ・病気なので会う人にやさしくする ・病気の回復の見通し
 がつかない ・足腰悪くて活動できない ・健康上の問題 ・病気を抱えているため体力的に自信が
 なく、家庭のことで精一杯です ・心臓疾患がある ・自分の膝が悪く、手術や治療のため ・現
 在、歩けないため ・身体が人のためにまで持たない ・高齢のため、思うように仕事ができない
 ・高齢のためと思われる ・曜日とか時間が合わない ・①②+自分の趣味で体力的にゆとりがない
 ・70歳過ぎたから ・家族が参加している ・金がもらえないのに誰かのために活動したくない ・
 貰える場合でも労力に見合った額ではないことが多い ・収入にならない ・コロナで人の集まる所
 へ参加できない ・新型コロナウイルス感染が怖い ・何の物にも気を使いたくない ・この地域に
 来て10年ほどですがまだ地域の中に入っていき勇気がない ・仕事がボランティアのようなものだ
 と感じているから ・仕事で疲れている ・仕事も同様のため、継続したくない ・自分のことに優先
 して時間と金を使いたい ・自分の世話もできないのに、他人の世話ができるわけがないから ・情
 報がない ・社会貢献活動には興味はあるが状況が分からない。 ・勉強が優先→資格を取るまで
 ・そういった活動は土曜日や平日にやっているイメージがあり、学生にとっては講義を優先しないと
 いけないため、参加したくても時間が合わない ・年齢に見合った活動が少ない ・年齢層に応じて
 活動を変化させてほしい。 ・若い頃やったけど無駄だった ・若い時にしていたので今は休んでい
 る ・どこでボランティアができるのか分からない ・積極的に探していない ・何が行われてい
 るか分からない ・生活困窮と独り身のため ・年齢と家庭の事情で時間が取れない ・離れている
 ところに病人居るので様子を見に行っていた ・人との関わりが怖い ・日々の生活でいっぱいなの
 に、その他を考える余裕な気持ちがない ・ボランティア活動の意義が分からない ・前はボラン
 ティアをしていたが、やめた ・まず国、地方自治体がやるべき、その次がボランティアだと思う。
 ボランティアに頼りすぎいませんか？怪我をしたら責任は？ ・特になし

問11で「していない」と回答した方に、ボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動に参加していない理由を聞いたところ、「仕事が忙しい」が42.0%と最も多く、「家庭のことで忙しい」が36.4%と次いだ。

問14 あなたは 今後どのようなボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動に参加してみたいですか？

n=843



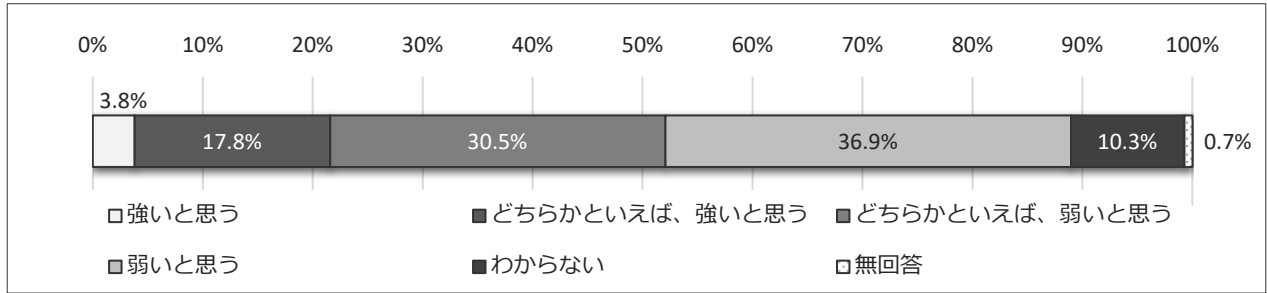
その他

・動物保護（4名） ・興味なし（2名） ・興味なし、体が動かない ・健康に自信がない ・健康面、経済面の不安がなければ可 ・足腰悪くて活動できない ・健康教室など・持病あり、参加したくてもできない ・体力がない・高齢のため、なし ・高齢のため活動は無理かな ・自分が高齢者だから何もできない ・地域、猫活動 ・インターネット関連を教える学習会 ・自宅の一部に地域等の休養スペースを作る ・ペットボトルのキャップを集める。古着をワクチンにする活動に参加。
 ・他の人に病気の共有アドバイスなど、思いやり ・町内会の清掃など ・老人クラブ ・これ！というのがないが、地域や社会の役に立ちたいな...と思う ・外出そのものが苦手です ・家庭の仕事で忙しい。時間的余裕がない ・コロナになって生活が大変で自分のことで精一杯です ・人間関係がわずらわしい ・人とコミュニケーションできない ・時間的にない ・仕事上できない ・したいと思わない（申し訳ないが） ・したいと思わない ・しない ・したくない（3名） ・参加したくない（2名） ・特になし（16名）

今後どのようなボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動に参加してみたいか聞いたところ、「清掃、環境保護・保全活動」が21.5%と最も多く、「地域づくり・まちづくりに関する活動」が20.8%と次いだ。

問15 あなたは、自分と地域の人たちとのつながりは強いと思いますか？

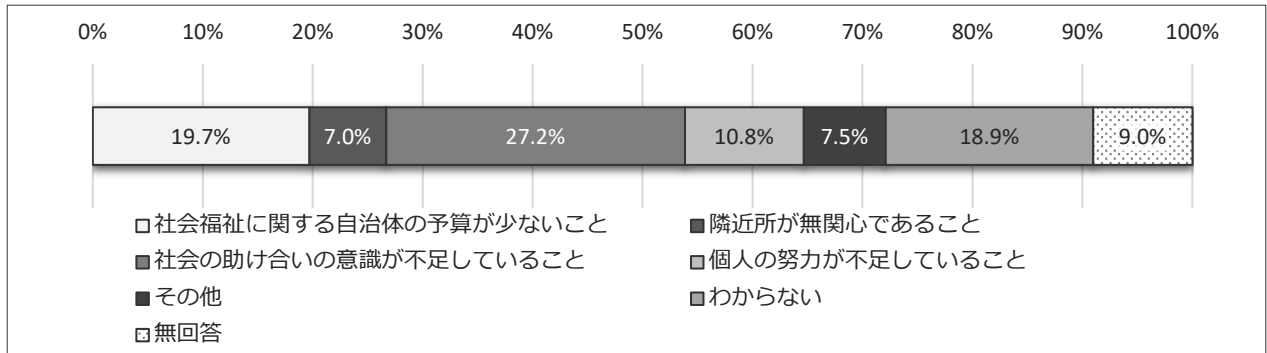
n=843



自分と地域の人たちとのつながりの強さを聞いたところ、「どちらかといえば、弱いと思う」と「弱いと思う」を合わせると67.4%が「弱い」と回答している。

問16 あなたは、貧しい人や弱い立場の人がなくなる原因は何だと考えますか？

n=843



その他

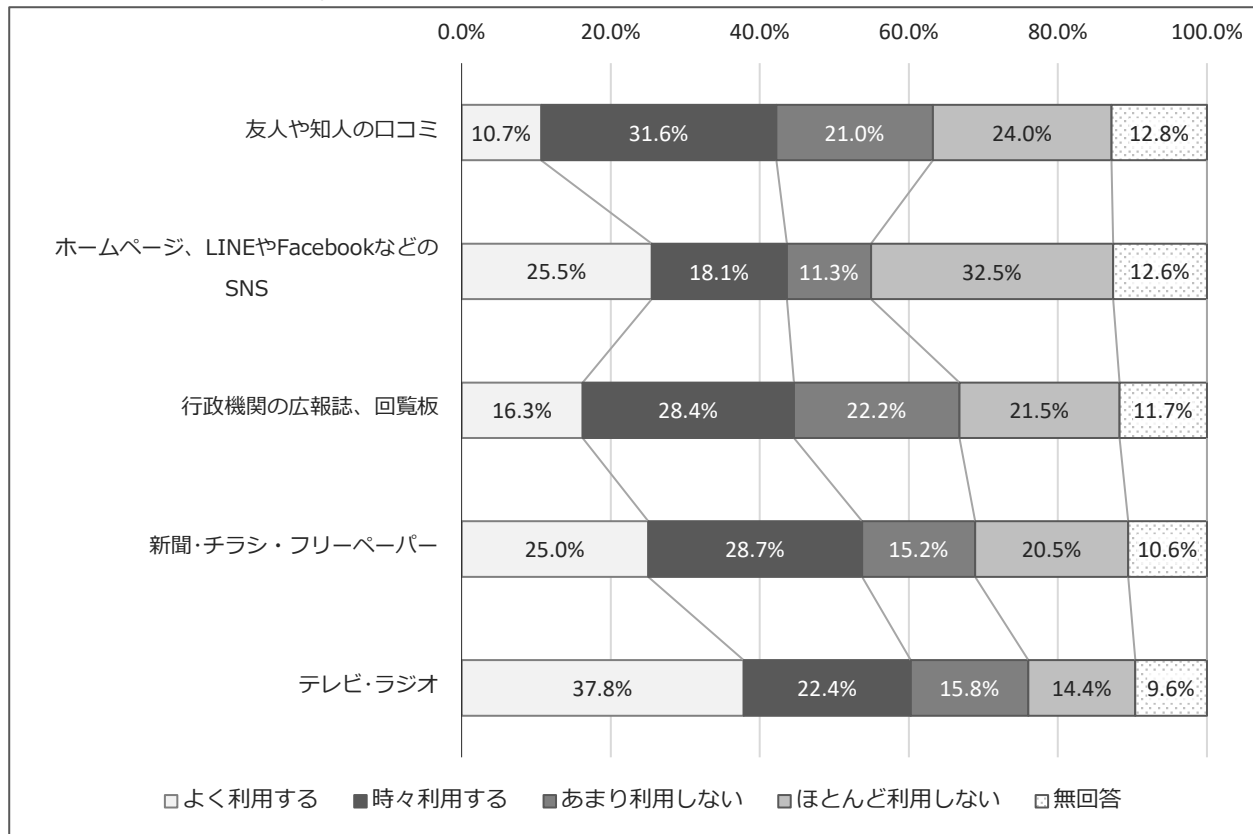
・国の政策（2名） ・仕事がないこと（2名） ・社会のしくみ（2名） ・政治の貧困（2名） ・社会構造（2名） ・1~4全てだと思います ・上記1~4が原因で一つにしほれない ・生きるための教育が足りないこと ・意識の持ちよう ・一部の人が富を独占しているから ・遺伝子 ・いろいろな原因 ・お金がないから ・お金に関する教育がなされないため ・学歴社会で子どもにお金がかかること ・家族が協力しないから（1人暮らしが多い） ・給料が安い、上がらない ・教育 ・国・地方自治体の政策不足 ・個人の能力の違い ・国のトップに居る人達の認識と価値観のズレ ・小泉内閣時の規制緩和（悪い） ・経済的な自立を手伝っていないから。国や自治体が ・自治体の対応時間に限りがある ・公務員に奉仕の気持ちがない（サラリーマン化） ・市の上部の職員は一般老人に関心がない ・コミュニティを形成する以上差は発生する ・収入や資産の多少による格差 ・仕事があつて、金をかせぐ、その機会があるかないか ・上記等総合的な原因（要因） ・自治体、個人、地域それぞれに努力、改善の余地があると思う ・政策の問題 ・社会において比べるのがあたりまえで、全員が共存できるわけではない。昇る人がいれば落ちる人がいる ・生活基盤となる収入が少ないため ・予算の運用がいまひとつ ・政治家やそこにつながる人ばかりが優遇されている。金銭面他いろいろなこと ・政治が悪い、お金を使うべきと頃に使っていない ・総理が悪い ・立場が上の人が下のことを考えていないから ・どちらも一方通行 ・日本経済の停滞による犠牲 ・日本の仕組み、雇用条件 ・日本は福祉国家ではないから ・働きたい人が働きやすい環境、理解が足りない ・必然 ・偏見 ・人が複数人居れば必ず生じる立場の差 ・予算など本当に必要としている人へ届いているのでしょうか？貧しい人弱い立場の人達と、その人達のことをどれくらい考え察してあげられるかが大切だと思います。そして手を差し出すこと

貧しい人や弱い立場の人がなくなる原因を聞いたところ、「社会の助け合いの意識が不足していること」が27.2%と最も多く、「社会福祉に関する自治体の予算が少ないこと」が19.7%と次いだ。

5 情報との接点

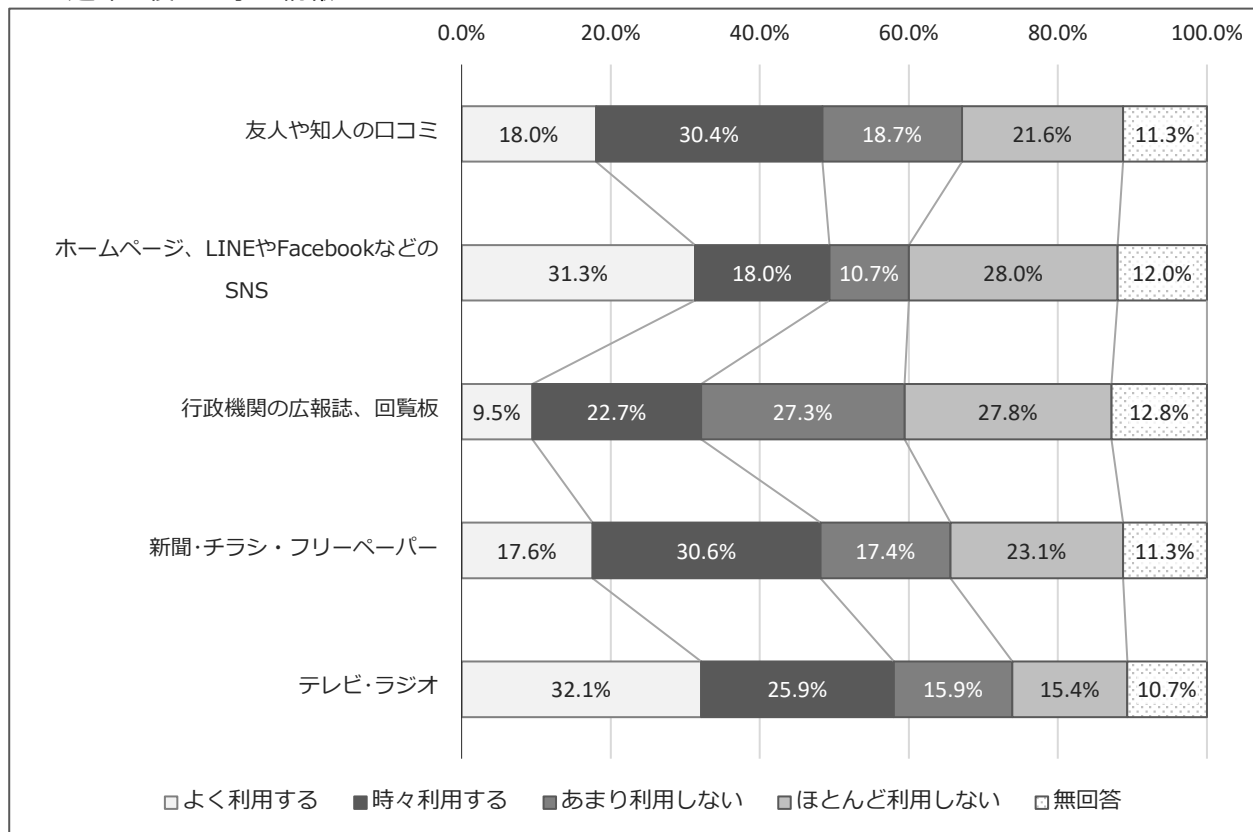
問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

1 仕事に役立つ学び情報



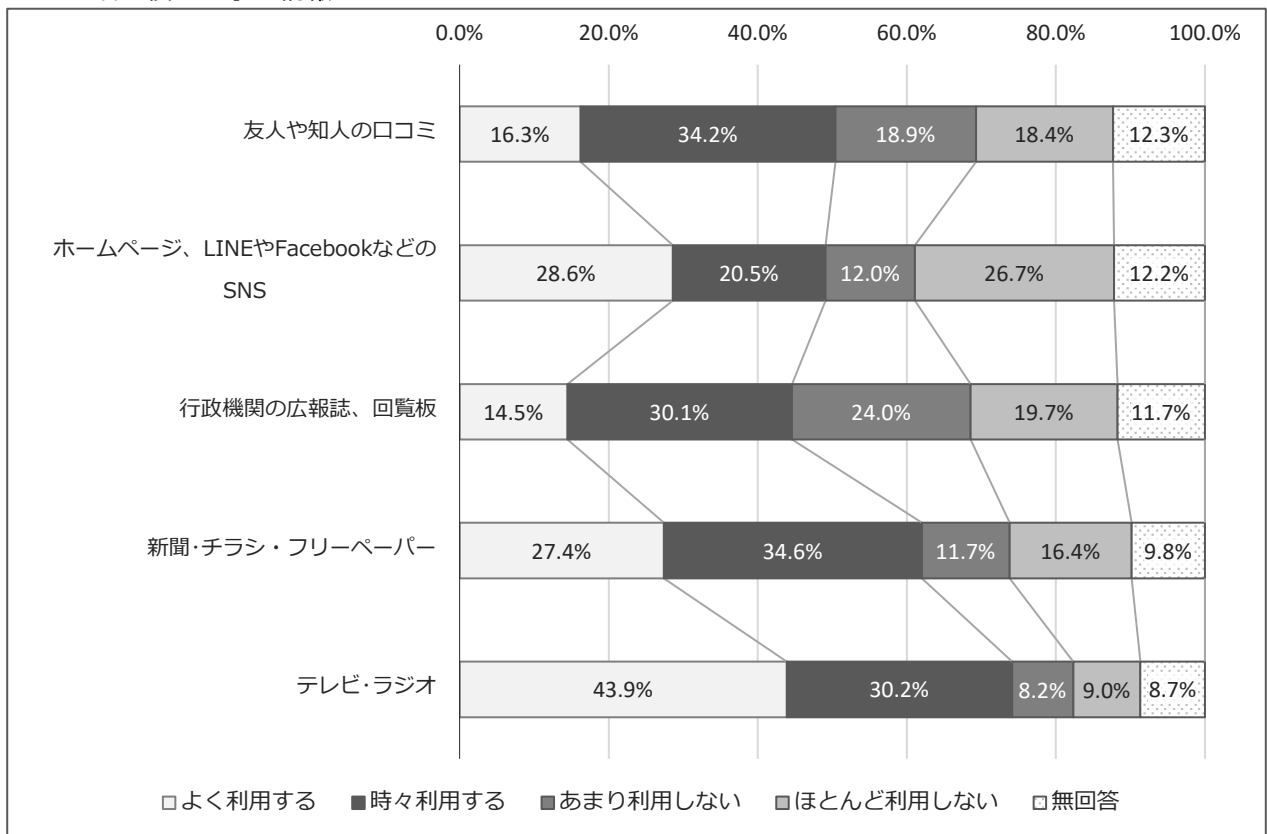
仕事に役立つ学び情報をどのように手に入れているか聞いたところ、「よく利用する」と「時々利用する」を合わせると、「テレビ・ラジオ」が60.2%と最も多く、「新聞・チラシ・フリーペーパー」が53.7%と次いだ。

2 趣味に役立つ学び情報



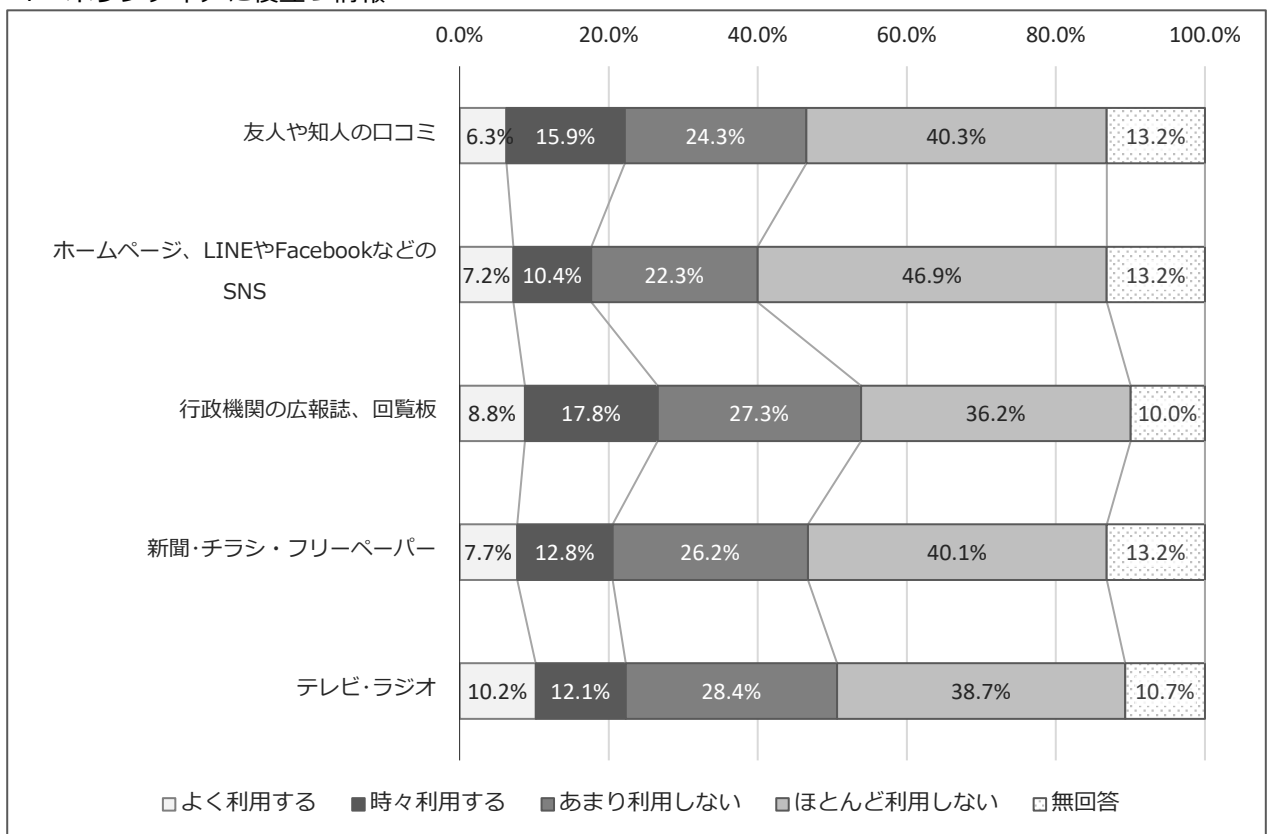
趣味に役立つ学び情報をどのように手に入れているか聞いたところ、「よく利用する」と「時々利用する」を合わせると、「テレビ・ラジオ」が58.0%と最も多く、「ホームページ、LINEやFacebookなどのSNS」が49.3%と次いだ。

3 生活に役立つ学び情報



生活に役立つ学び情報をどのように手に入れているか聞いたところ、「よく利用する」と「時々利用する」を合わせると、「テレビ・ラジオ」が74.1%と最も多く、「新聞・チラシ・フリーペーパー」が62.0%と次いだ。

4 ボランティアに役立つ情報

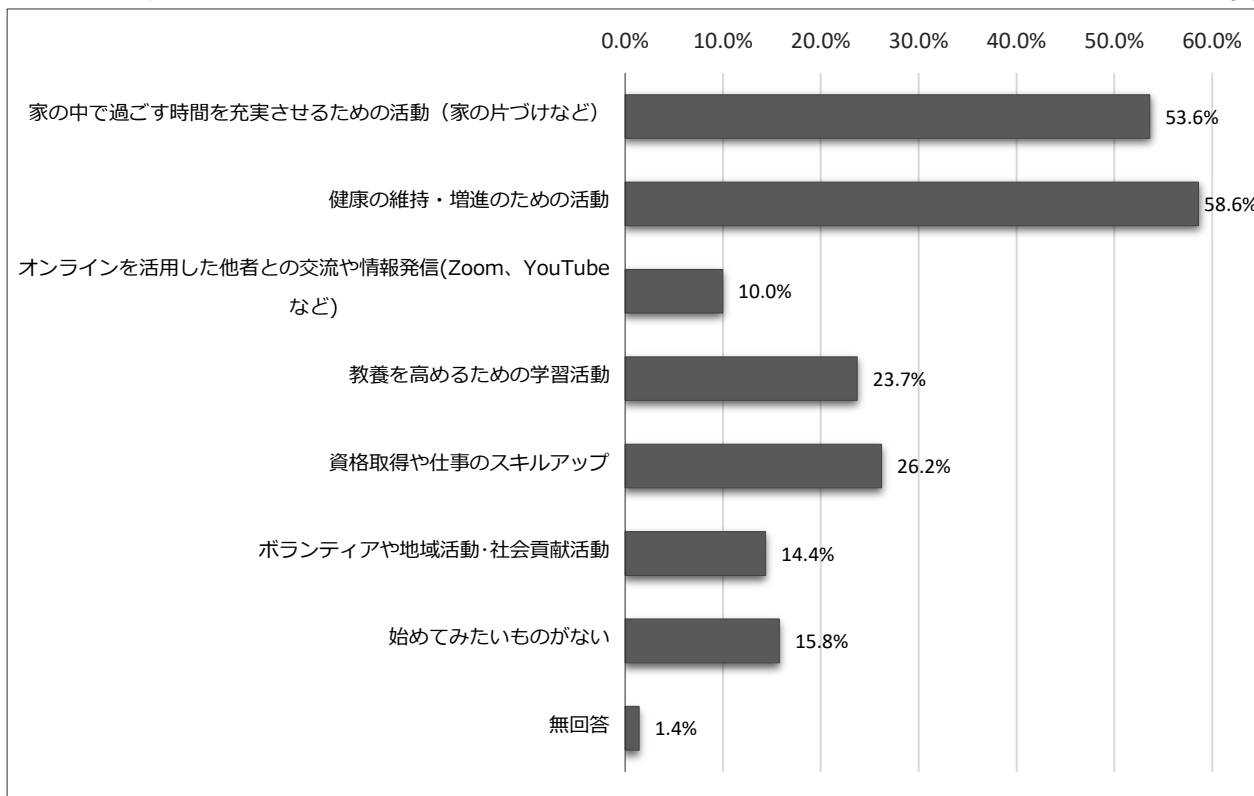


ボランティアに役立つ学び情報をどのように手に入れているか聞いたところ、「よく利用する」と「時々利用する」を合わせると、「行政機関の広報誌、回覧板」が26.6%と最も多く、次いで、「テレビ・ラジオ」が22.3%、「友人や知人の口コミ」が22.2%であった。

6 新しい生活様式など

問18 新しい生活様式が求められている現在、どんなことを始めてみたいですか？

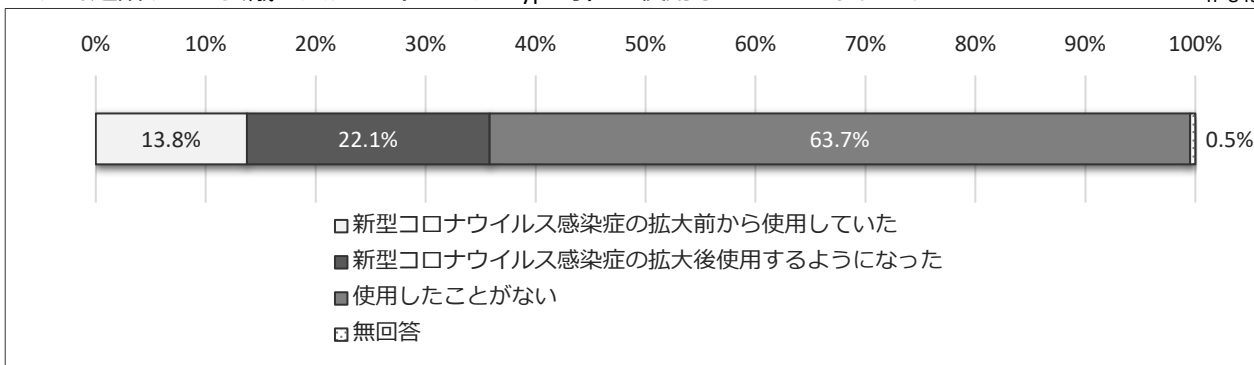
n=843



新しい生活様式が求められている現在、どんなことを始めてみたいか聞いたところ、「健康の維持・増進のための活動」が58.6%と最も多く、「家の中で過ごす時間を充実させるための活動」が53.6%と次いだ。

問19 ビデオ通話やWeb会議システム（Zoom、Skype等）を使用したことがありますか？

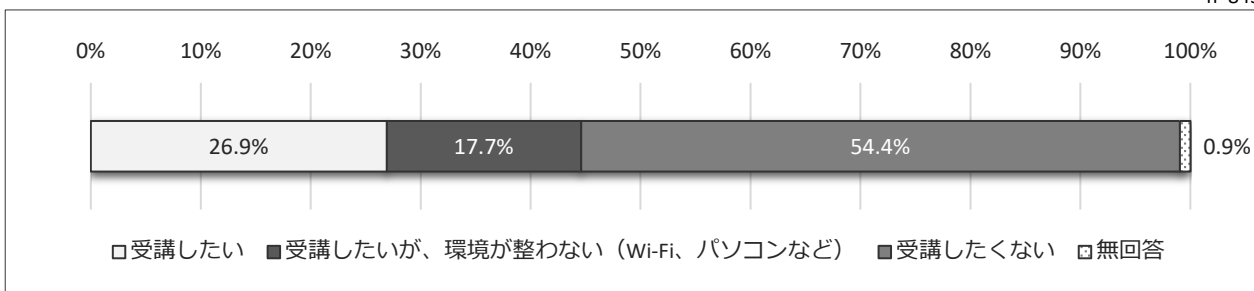
n=843



ビデオ通話やWeb会議システムを使用したことがあるか聞いたところ、「使用したことがない」が63.7%と最も多い。

問20 今後、ビデオ通話やWeb会議システム（Zoom、Skype等）を使用したオンライン講座を受講したいですか？

n=843



ビデオ通話やWeb会議システムを使用したオンライン講座を受講したいか聞いたところ、「受講したくない」が54.4%と最も多い。

問21 アンケート全般を通して、生涯学習や社会教育に関して、お気づきの点などをご自由にお書きください。

・公共施設でのヨガレッスンを受講したいと思ったことがあるが、働いている時間帯、平日の日中しか通えない設定。働いていない人しか通えない。予算、適当に配分して講座など催し物をやったところで役所のサクラの人が参加するようでは無駄です。

・20年前のことですが、その当時にオーストラリアとカナダに短期留学しました。年齢差のある方々が共に学びの場を提供したり、教会やコミュニティーセンター、商店街の一角を開放して学びの場を作っていました。大学等の教育施設が学生や卒業生に限らず地域の人々、または、弱者や障害者への自立援助のカリキュラムを組んで地域全体が一緒になって活動していた。

・62歳の今、自身の母親の世話をしており、今後夫の両親の介護がある状況のため、ボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動をする余裕はないと考えていましたが、そんな中でも自分にできることはあるか考える視点を持つていこうと思います。

・青森県は学習よりも生活を維持することでいっぱいの人が多いのでは？人生を豊かにする前に生活を豊かにしたいと思う人に、学ぶことによって、生活が変われる認識が必要だと思う。

・アンケートの質問で思ったことを書きます。30代始めの頃にやってみたい習いごとの見学に行ったのですが、その時先生から「今、流行しているから習いたいのか？」って言われ、年配の生徒さんの前で少しバカにしたように笑われてしまって以来、トラウマになって何年もやりたい気持ちになれませんでした。都会ではよくニュースで、何かブームになったりするとその教室の生徒が増えると聞いたりしましたが、本気で習いたかったので残念でした。知人から聞いた話では、同じ教室に通う高齢者の方々が絶対に意見を曲げないので、いつも若い自分たちが折れなければならないと、田舎特有の閉鎖的なところとか年上は何かなんでも見習わなければならないという考えが若い年代のやる気をなくしたりもあるのではと思います。転勤族の友人が趣味を20年ずっと続けて行っているのは、その地域の人がずっと受け入れてくれる環境を作ってくれたから続けて来られたと聞きました。私自身もとても刺激になる話も聞けるし、ここの地域の欠点だろうと思う参考になる話も聞けます。地元の人だけでなく、県外の人のお話はとても貴重な話だと思います。学ぶことも多いです。その地域で体験したことが今の仕事につながっているのかなどなど。仕事はこちらにないので、東京方面に就職を希望するようですが、実際は製造業生産の工場では若い人が入って来ないので、身体がきつなくても辞めたいのに辞められないというパートさんも多いようです。将来の地域のためには、やはり若い人たちに地元に残って生活ができるようになればいいなあと思っています。いろいろ日頃思っていることをずらずら書きました。なので、趣旨に合っていないかもしれせん。申し訳ありません。

・移動や人との接触が著しく低下している中で、如何に信頼関係や心の結びつきを深めていくのか課題となっていると考える。

・今、継続雇用で働いています。仕事が終わった後のことを考えると家に閉じこもりにならないようにしたいと思っていますので、学習活動は興味があります。

・今はコロナですのでダメだと思うのですが「何々があります、一緒に行きませんか？」と声を掛けられたことが一度もありません。

・いろいろな仕事をしてみたいけど…田んぼと畑が1年中忙しくて、思うようにはなりません。いろいろな活動があるのはいいことだと思います。ただ…知らない人たちと活動して事件に巻き込まれたりしないかと不安にはなります。

・各市町村が災害他発生するとボランティアを募集するが、自らやることがないのか？災害他発生前にしっかりした町づくりをしてください。

・学習活動は自分のためにも、他人のためにも必要なことだと思う。

・義務教育で「お金」「性」などについての教育がもっとされれば、変わると思う。

・教育委員会主催の学習会等に何度か参加させていただいたが、その時限りで後々につながったことがない。長期的視野で人材育成や市町村への貢献が期待できるプランを考えてみてはいかがか。

・教育に関する人員不足が続いていると思いますが、多くの優秀な人材がいると考えます。この時だからこそ、不特定多数に呼びかけるのではなく、一個人をたずねて教育への興味等を引き出す行動をする時ではないでしょうか。

・教育レベルの向上とともに、教育に力を入れることが青森県の将来に最も重要だと思います。

- ・今日現在、コロナ禍で経済的に不便を感じています。そんな中で生涯学習ボランティアなど余裕はありません。
- ・行政が考える企画は少し難しく内容がちゃんとし過ぎていて堅苦しい。もっと気軽に参加できるような企画内容が良い。
- ・興味があること、行ってみたい講座、集まりなど、たくさんの情報を得ても有休など取れず、見送っていることが多いです。
- ・教養を高めるための学習活動を積極的に実施したいと考えております。
- ・居住している村ではファミサポなどの支援がない。子どもとの時間は大切だが、子どもを安心して預けられる環境が欲しい。また、子どもを連れていけるのであれば連れて行きたい（教室やボランティアなど）子どもが歓迎されていない空気をいろいろな場所で感じる。子連れ大歓迎！とか託児所付き！みたいな教室やボランティアが欲しい。かみきたデンタルクリニックみたいに託児所付きだと病院にも行きやすいし、こういうのが教室やボランティアにもあるといい。家で学ぶにも子どもの相手があると連続で時間を確保できず、学びに集中できない。（個人の問題でもある）
- ・車の移動以外の学習の場が少ない地域の学習の場の設置をお願いしたい。子どもの少ない地域の学校後の学びの場の少なさ。（スポーツ、学習共に）
- ・健康の維持、増進のため活動。明るい教養を高めるため学習活動。
- ・現在考えること、学習、教育って何。小学校で学んだこと、何か役に立っているか。字が読めること。中学校、高校、大学とあるこの教育課程で一番たしかに学んだこと、小学校だけだと思う。いろいろなことが起きて、人の困ること、それを助ける過程で教えていないから今の時代ができたと思います。
- ・現在仕事をしていますが、人生100年と見ると健康で充実した時間を過ごすためには、学習が必要であり、社会貢献をしていきたいと考えています。コロナ禍でSNSが誰もが使いやすいように行政の政策を作っていただきたいと思います。
- ・現在の私は畑仕事生きがいのようなものです。畑で仕事している人とおやつ食べて、いろいろ野菜作りのことを話をするのが好きです。今は、文章を読んでも理解できない点も多くなってきています。今回のアンケートの内容は今の私の年齢だと背伸びしてもなかなか難しいですね。
- ・講座に会場へ行って参加することはコロナ感染する怖さがあります。また、費用なども発生すると思いますので現状の生活では学ぶ事は無理です。ビデオ通話システムを準備することもできません。仕事をする事で精一杯です。生活しやすい青森県になって欲しいです。
- ・公民館活動に参加した頃もあったが、今は体力面でも減退して長続きできなくなりました。近所の方とテレビ雑誌から情報を学び、趣味を楽しんでいます。
- ・高齢者にもできる農業の充実を図っていただければ助かります。
- ・個人的にイラストレーションを通信講座で学んだがそれ時点で止めている。そのための作業を余生で生かすために根本的に考えたい。
- ・今年70才を迎え、身体の調子も良くないので（病院通い）したいことに意欲がわいてこないです。でも、孫（小学生）と一緒に暮らしているのでせめて健康になったら趣味の方（仕事も）学習したいと思っています。まだ大丈夫でしょうか？
- ・コロナウイルスが流行らなくても、最近の若い方はあまり汗をかいて人に対するボランティア活動は40年前に比べて意識が少なくなっていると思います。
- ・最近コロナの影響もあり参加できていませんが、いろいろな講座に出るのを楽しみにしていました。年齢を重ねるほど、まわりが狭くなりがちなので生涯学習は必要不可欠だと思います。その点では、オンライン講座はあまり私たちの年代にはそぐわないような気がします。ボランティアについてはやってみようという方が多いとは思いますが、どこからどう始めればよいのか、一歩踏み出しが分からないような気がします。ポイントカードのような物とか、どんな物があるのかなど、発信がもっと必要ではないでしょうか。
- ・仕事が忙しく生涯学習や社会活動をしたくても気力も体力もない。時間的余裕もないため、もっと地方でも週休2日が定着し、また、経済的にも安定すれば生涯学習等に取り組むことができるかもしれない。

- ・仕事を中心の生活になっているので、今回のアンケートで少し興味がわきました。情報に少しずつ目を向けていきたいと思えます。
- ・仕事をしていれば、テレビ・ラジオからの情報を得るのがほとんどだと思えました。コロナ禍で職場での研修会、講演会など中止となっています。また、日時決まっても場所が未定などとなっています。必要なもの、学校での勉強、公開講座など、予定されたものはビデオ配信などして施行した方がよいと強く思います。
- ・仕事で時間がなく、学習や地域に関することについて考えることがなかったと思った。
- ・仕事や家事育児の合間に行くことはとても大変であり、強い意志が必要だと感じました。
- ・仕事を退職したら、何かボランティア活動してみたいと思っています。
- ・仕事を離れた現在、時間にはゆとりができたとはいえ、住む地域が変わり、今いろいろ考えているところです。何についても全て家族の協力と理解が必要だと思い悩んでいることも事実です。
- ・自分の興味を持てるもの、やりたいことが見つけられる環境がなかなか整わない。また、やりたいことがあっても、仕事などでやっている状況にないのが現実である。自分なりのスピードでやっていくつもりではあるが、今はその時ではない。
- ・自分の生活でいっぱい입니다。
- ・自分は社会の現役活動を卒業し、町内会活動を支援する老人会の活動に参加させてもらってます。老人会といっても70前後の人たちの集まりで、皆さん若々しくまだ現役でも…と思われる人たちばかりです。1人で老後を楽しむよりも、仲間と一緒に清掃やゴミ拾いなどの環境活動（小学生と一緒にのときもある）をしたり、名湯を巡る湯治旅や花見、盆栽まつり等を見たりするのも仲間とならとても楽しいものです。これらの楽しい活動への参加を誘導するような公的機関のプレス活動がない訳ではないが、少ないと思う。このプレス活動の内容によって理解を深めてもらえば心を開いた人は（数はともかく）参加してくると思うが、どうか？
- ・市民センターなどの講座を受けたいが、平日開かれるものが多く、ぜひ土日でもやってもらいたい。
- ・社会、地域での奉仕活動が重要であることは十分認識しているが、少しでも生活を向上させ安定させるため仕事時間を多くし働いている人が周囲でも多くおり、時間的な余裕を持っていないのが現状です。企業自体がブラック企業が多く、サービス残業、有休休暇は1日も取得できない、ハラスメント等が多く、社会、地域への貢献活動をやるという気持ちにはなれない。
- ・社会的な参加もボランティアも健康な身体が一番基礎になると思います。そのためには自分の身体は自分で守ることを若いうちから心がけ「短命返上」「医療」「食事」等に関心を持つ社会構築が必要だと思います。老人化社会になりつつある今、高齢者も自分ができることは進んでやる気合を持ち、外出する機会を増やし、多世代が集う場所、地域の交流の場所をもっと増やしていただき「地域のにぎわい」「子どもの育成」「高齢者の健康づくり」等、つなぎ助け合う社会になることを望みます。
- ・術後、体力が弱くなり、毎日体づくりのため、ウォーキング・水泳等をしているが、精神面で前向きに生きて行くことが弱くなっている。術後は単発では行政関係の勉強会に入ったりしました。
- ・主婦で今、仕事をしていないですが自宅で収入を得られるようにもっといろいろな仕事の幅が増えたらいいなと思えます。Zoomで化粧品のセミナーに参加して、収入がもらえたりするのが増えて欲しい。コロナが拡大したら、子どもはオンライン授業で勉強の遅れが出ないように頑張ってもらいたい。
- ・主婦でも家にいながら仕事ができる時代が来たのではないかと、通信による学習もしましたが、そこからどうやって仕事あるいは地域に貢献できるかが分からず、一歩が出せないうえです。ここからの一歩を踏み出せるお力や情報をもっとあったらと思えます。
- ・趣味の講座などで、例えば美術関係等では中央から先生を来青していただき県が率先して講座を開設していただくことを希望します。中央が無理な場合は、青森県内の先生に講座をお願いします。
- ・生涯学習、活動したい気持ちはありますが、今は生活に追われて余裕がありません。（時間、気持、金銭的に）
- ・生涯学習などにも参加したりするが、逆に自分の能力のなさ、力不足を感じてしまう。

・生涯学習や社会学習といったものは経済的、時間的余裕があって初めてできるものと思います。個人的には仕事と子育て、家事でそこまで手が回らない（やりたくてもなかなかできない）のが現状です。

・生涯学習や社会教育がもっと身近で行きやすいものになっていけばいいですね。

・生涯学習や社会教育に関心はあるが、生活環境、身体的なものから、なかなか実行が難しい。オンライン等も若者が身近におらず、高齢者だけだと操作がうまくできず、あきらめざるを得ないです。今やっていることを、できる範囲の中で続けていきたいと思っています。

・生涯学習や社会教育の活動に参加してみたいと思うが、知らない人たちの中に入って行くのが難しい。遠くで開催されると交通の便が悪くて行けない。

・生涯学習や社会教育の情報につきましては、広報誌等で知りますが、いつも素晴らしい取り組みだと感心いたします。平和な社会だと思います。

・情報を入手する手段が機器を使用することが多くなり、その環境にない人は取り組みが進まない。また、情報を入手しても、移手段の弱者（車がないなど交通弱者）はなかなか参加できない。

・新型コロナウイルス拡大の影響で家で過ごす時間が増え、部屋を片づけることが多くなった。何年も使っていない物がたくさんあり無駄なお金を使っていたと反省することができたと気付く機会となった。

・新型コロナウイルス感染症の終息を願っております。

・自治体で気軽に参加できるパソコンの使い方やオンライン講座など開いて欲しい。できたら無料で誰でも参加できるような環境を作って年齢差や経済的理由で学べないということのないように、生涯学習を充実させて欲しい。コロナ禍や高齢者社会に向けて対策が必要だと感じている。

・生活習慣にマッチした勉強会などあればいいのですが。たとえば、近場でできることなど。

・生活上の人間、子どもも含む他人の話を聞いて、あの人はと言うことを信用している人たちは私は私は大嫌いです。その前に友達がいないのかな。

・他市より越して来ました。参加してみたいと思うものがあっても遠過ぎてあきらめています。楽しめる情報がたくさんあって欲しいと思います。

・テレビラジオを利用していないことが分かった。⊕テレビラジオで報道されないことをYouTubeといった動画配信サイトで見ることで詳しい情報を知ることができている。⊖社会の情勢、経済等に興味がないためにテレビやラジオを利用せず、スマートフォンで好きな時間に好きな情報、知りたい情報を見ることでその他の情報を補っている。だから、生涯学習や社会教育を若者に落とし込むには、LINE、twitter等のアプリケーション広告を（確実に信憑性のあるもの）を出す必要があると思った。そうすれば目を通すきっかけになると思う。

・何をすることもお金と時間が必要です。超低賃金フルタイムで車もないため、今の生活を変えられない氷河期世代非正規はあふれています。青森は特に現役世代への支援がないと思っています。年齢に関係なく学習ができて、その後の生活に期待できるような環境ができることを願っています。

・年間を通して受診日の他は全く外出しないので良く分からない。

・一人ひとり体験して学ぼう。ただ楽しくやりたい（他者のルールではなく自分なりに自分を素直に正せよ）あらゆることがオープンになること。

・ボランティアなど社会貢献をしたいと思うが、きっかけがなく実行できていない。現在、親の介護と仕事の両立で、時間にあまりゆとりがないのも原因となっている。今後、行政の方にもいろいろと情報を提供してもらい、時間が来たらボランティア活動など積極的に参加したい。また、地域の人たちとの関わりもほとんどなく寂しい気もする。コロナのせいもあるが、町内会の集まり＝年寄りの集まりというイメージが強く気が進まない。

・まずは自分のための自由時間をつくる必要がある。そのためには働き方を改革してもらえる社会が必要である。

・娘をとおして社会の事情を得ている。自分で創意工夫して、あまり他者に依存しない。

・若い時代に学習時間の減少や学力低下を受けていると、いくら大人になってもそこから学習を始めようとは思わないと思う。スマホやネット社会でも良いが、学ぶ時間や範囲はある程度昔のように確保しないとイケないと思う。

・私は20年以上主人の病気と（精神的な）向き合ってきたのですが、長い間病院に通ってきて、心の病をかかえた方の多さにおどろきました。そしてそれを支える家族の苦しみも見てきました。主人が亡くなってやっと自分の自由な時間ができた今、自分のこれからの人生を豊かにしたり、ボランティア活動も大切かもしれません。しかし、自分の身近な所でもすごく心の病で苦しむ人が多いので、声を掛けて話を聞くこと、自分が苦しかった時、人にそうやって助けてもらったことをお返しする気持ちで自分の人生を豊かにしていきたいと思っています。

・子どもが小さいときは子育てに関するイベントなどで公民館を利用することがたびたびあったが、最近は利用する機会がなくなった。

・特になし（17名）

○アンケートに対する意見

・アンケート対象者の選択方法を記載して欲しい。突然郵送されていたが、今の世の中、どこでの情報で送られてくるのが協力依頼するのであれば明確にしてほしい。

・本アンケート対象者がどのような経緯、または理由で決まったのか、簡単な説明はいただきたかったです。

・アンケートの内容は理解できるが、このコロナ禍の中、この1年で…というのは、外出を控えてるこの時期に？違和感を感じました。

・私のような年寄りにアンケートを送ってきても役に立てない。もう少し若い人を対象にした方がいい。

・こんなアンケートで何がわかるのかギモン！！

・印刷が切れていて気になりました。（問17-3）

第3章 考察

I 青森県民の電子メディア利用と生涯学習行動

青森大学 社会学部 教授 柏谷 至

はじめに

第15期の青森県生涯学習審議会における議論の中心テーマのひとつは、「情報通信技術 (ICT) 等の新しい技術を活用した学びの在り方」である。情報通信技術の進展に伴って普及してきた新たなメディア状況は、生涯学習・社会教育の分野にもさまざまな影響を与えると考えられる。

代表的なインパクトとしては、時間や距離の制約を越えいつでもどこでも学習が可能になること、ニッチな情報へのアクセスが容易になること、誰もが情報の発信者になれることなどが上げられる。その一方で、他方で誤った情報の流布や、自分とは違う意見・視点との接触が行われない「エコーチャンバー効果」の存在といった負の側面も指摘されるようになってきた。

本稿では、「生涯学習に関する県民の意識調査」の結果から、青森県民の電子メディア利用の実態と生涯学習に関連した行動との関連について紹介し、今後の生涯学習・社会教育の課題について考察を加えたい。

1 「学びに関する情報の入手先」をめぐって

本調査の問17では、学びに関する情報の入手先を尋ねている。仕事・趣味・生活・ボランティアの4つの分野に役立つ情報を入手先として、「テレビ・ラジオ」、「新聞・チラシ・フリーペーパー」、「行政機関の広報誌、回覧板」、「ホームページ、LINEやFacebookなどのSNS」、「友人や知人の口コミ」の5つの情報源をそれぞれどの程度利用しているか、4段階で評価してもらう設問である。

表3-1では、平成27年度に実施した「学習活動に関する県民の意識調査」(以下「2015年調査」という)における同様の質問との比較を示した。2015年調査とは回答の方法や情報源の分類の仕方が異なるため、単純な比較はできないが、「テレビ・ラジオ」と「ホームページ・SNS」を積極的に利用する人の割合が増加しているように見える。

また情報源同士の順位に注目すると、2015年調査では、情報入手先として最も回答が多かったのは「新聞・チラシ」(ボランティアに関する情報では「行政機関の広報誌」)であり、「テレビ・ラジオ」や「ホームページ」がそれに続いている。これに対し、2021年調査では、「仕事」「趣味」「生活」に関する情報源として「ホームページ・SNS」が「新聞・チラシ・フリーペーパー」を抜いて第2位になった。電子メディアが、学びの情報源として定着しつつあることを示唆する結果と言える。

表 3-1 学びに関する情報の入手先 (2015 年調査との比較)

情報源		目的							
		仕事		趣味		生活		ボランティア	
2015	2021	2015	2021	2015	2021	2015	2021	2015	2021
テレビ・ラジオ		14.1%	37.8%	15.6%	32.1%	19.3%	43.9%	9.7%	10.2%
新聞・チラシ	新聞・チラシ・フリーペーパー	20.2%	25.0%	19.3%	17.6%	20.6%	27.4%	17.6%	7.7%
タウン誌・フリーペーパー		4.7%		7.5%		6.8%		4.4%	
行政機関の広報誌 回覧板や 掲示物	行政機関の 広報誌、 回覧板	15.2%	16.3%	10.2%	9.5%	14.4%	14.5%	24.3%	8.8%
		7.8%		7.0%		8.6%		17.4%	
ホームページ	ホームページ、LINE や Facebook などの SNS	16.4%	25.5%	15.1%	31.3%	12.3%	28.6%	7.0%	7.2%
SNS (LINE や Facebook)		3.3%		6.0%		4.0%		2.4%	
友人や知人の口コミ		9.2%	10.7%	15.1%	18.0%	9.0%	16.3%	7.8%	6.3%

注：2015 年調査は、9 種類の情報源の中から「情報を手に入れているところ」として当てはまるものすべてを選択してもらった回答の選択率。2021 年調査は、その情報源を「よく利用する」～「全く利用しない」の 4 段階で評価してもらったとき、「よく利用する」と回答した人の割合。

2 情報収集に積極的な人・消極的な人

電子メディアの利用は、既存のメディア利用とはどの程度異なるのだろうか。表 3-2 では、各情報源同士の利用度の相関係数を示した。相関係数がプラスであれば、2 つの情報源は同時に利用される（あるいは同時に利用されない）傾向があることを、マイナスであれば、一方の情報源を積極的に利用する人はもう一方の情報源をあまり利用しない傾向があることを意味している。相関係数が 0 に近ければ、両者の利用傾向には関連性がないことになる。

まず、全体として相関係数がプラスになる組み合わせが多いことが、表からは見てとれる。ある情報源を積極的に利用する人は他の情報源の利用にも積極的であるのに対し、ある情報源を利用しない人は別の情報源もあまり利用しない傾向にある。言い換えれば、「情報収集に積極的な人」はどのメディアもよく利用しているし、「消極的な人」はどのメディアもあまり利用しない、という関係にあると解釈できる。

表 3-2 をさらに詳細に見れば、メディアによる利用傾向の違いにも気づかされる。「仕事」「趣味」「生活」の 3 つの分野では、「新聞等」「広報等」の利用とホームページや SNS などの「ネット」利用との間には、相関が見られない（表の灰色網掛け部分）。新聞や広報誌のような印刷メディアと電子メディアとの関係は、一方を利用する人は他方を利用しないとといった対立的関係ではないものの、相対的に独立した関係にあると言える。

表 3-2 情報源の利用度の相関係数

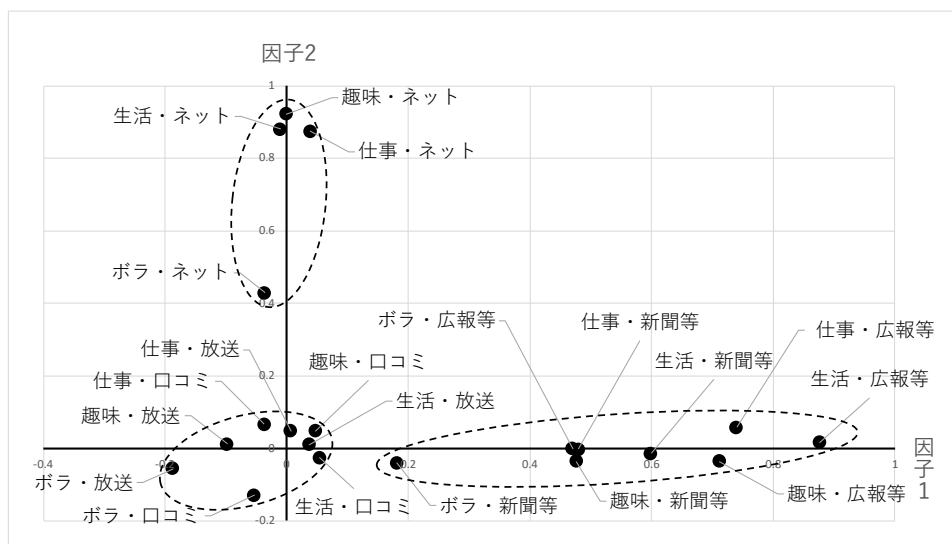
		放送	新聞等	広報等	ネット	口コミ
仕事	放送	1.000	0.543**	0.449**	0.125**	0.325**
	新聞等	0.543**	1.000	0.571**	0.003	0.239**
	広報等	0.449**	0.571**	1.000	0.043	0.241**
	ネット	0.125**	0.003	0.043	1.000	0.396**
	口コミ	0.325**	0.239**	0.241**	0.396**	1.000
趣味	放送	1.000	0.540**	0.357**	0.132**	0.316**
	新聞等	0.540**	1.000	0.588**	-0.029	0.254**
	広報等	0.357**	0.588**	1.000	-0.058	0.280**
	ネット	0.132**	-0.029	-0.058	1.000	0.366**
	口コミ	0.316**	0.254**	0.280**	0.366**	1.000
生活	放送	1.000	0.567**	0.391**	0.078*	0.289**
	新聞等	0.567**	1.000	0.607**	-0.046	0.225**
	広報等	0.391**	0.607**	1.000	-0.043	0.224**
	ネット	0.078*	-0.046	-0.043	1.000	0.351**
	口コミ	0.289**	0.225**	0.224**	0.351**	1.000
ボランティア	放送	1.000	0.793**	0.602**	0.519**	0.549**
	新聞等	0.793**	1.000	0.719**	0.441**	0.505**
	広報等	0.602**	0.719**	1.000	0.435**	0.563**
	ネット	0.519**	0.441**	0.435**	1.000	0.557**
	口コミ	0.549**	0.505**	0.563**	0.557**	1.000

注：数値の右肩の*印は、相関係数が 5%水準で統計的に有意であることを、**印は 1%水準で有意であることを表す。

3 「電子メディア 対 既存メディア」の対立関係は存在するか？

上記の関係をより詳細に分析したのが、図 3-1 である。ここでは、因子分析（主因子法・プロマックス回転）を用いて、分野別・情報源別の利用度を決定している共通の要因として 2 つの因子を抽出した。

図 3-1 情報源別利用度の因子分析結果 (各項目の因子負荷量)



各項目の因子負荷量を見ると、「新聞等」「広報等」では第1因子の、「ネット」は第2因子の負荷量が大きくなっている。「放送」「口コミ」はいずれの因子負荷量も小さい。ここから、第1因子は新聞・広報誌といった印刷メディアの利用度を、第2因子はホームページやSNSといった電子メディアの利用度を表していると解釈できる。

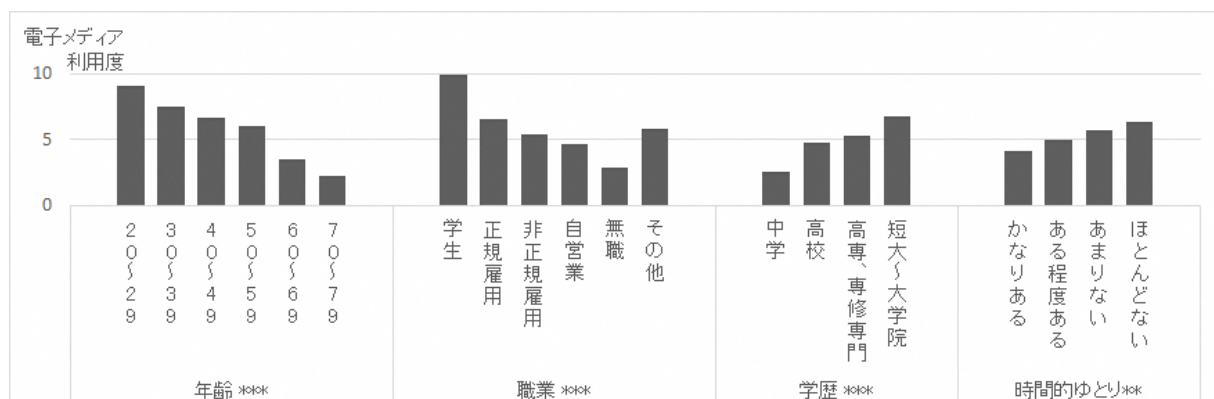
2つの因子は緩やかに相関しており、「電子メディアが印刷メディアを駆逐する」と俗に言われるような、排他的関係にあるとは考えられない。それでも、情報の入手先として電子メディアの重要性と独自性が増してきていることは、本調査の結果から確認できるのである。

4 「電子メディアをよく利用する人」の社会的属性

そこで以下の分析では、回答者の電子メディア利用度を数量的に把握することを試みる。具体的には、問17の「ホームページ・SNS」の利用度を点数化し（「よく利用する」3点～「ほとんど利用しない」0点）、「仕事」「趣味」「生活」「ボランティア」の4分野を合計して「電子メディア利用度」スコアを算出した¹。このスコアが大きければ、回答者が電子メディアを積極的に利用していることを、小さければあまり利用していないことを示す数値である。

図3-2には、回答者の基本的な属性と「電子メディア利用度」との関連を示した²。電子メディアの利用度に最も明確な影響を与えているのは、年齢（問1の2）である。電子メディアの普及が近年になって急速に、若年層を中心に普及したことを考えれば、当然の結果と言える。

図3-2 基本属性による電子メディア利用度の違い



他の基本属性についても見ると、職業（問2前半）では学生や正規雇用者で高く、無職・自営業者・非正規雇用者で低い傾向が見られる。最終学歴（問2後半）が高いほど、

¹ こうして算出した「電子メディア利用度」の最大値は12点、最小値は0点、回答者（無回答を除く）の平均値は5.32点となった。尺度の信頼性係数（クロンバックの α ）は0.884であった。

² 各属性と「電子メディア利用度」の間で一元配置の分散分析を行い、属性を基準とするグループ間の平均値に統計学的な有意差があったものを図に示した（該当者数が極端に少ないグループは図から省略した）。なお、図表の*印は、5% (*)、1% (**)、0.1% (***) の水準で有意であることを示している。

電子メディア利用度のスコアも高い。また、時間的なゆとり（問3前半）については、「ない」と答える人の方が、電子メディアをより積極的に利用する傾向が見られた。これらの変数は年齢との関連性が深いと考えられる。

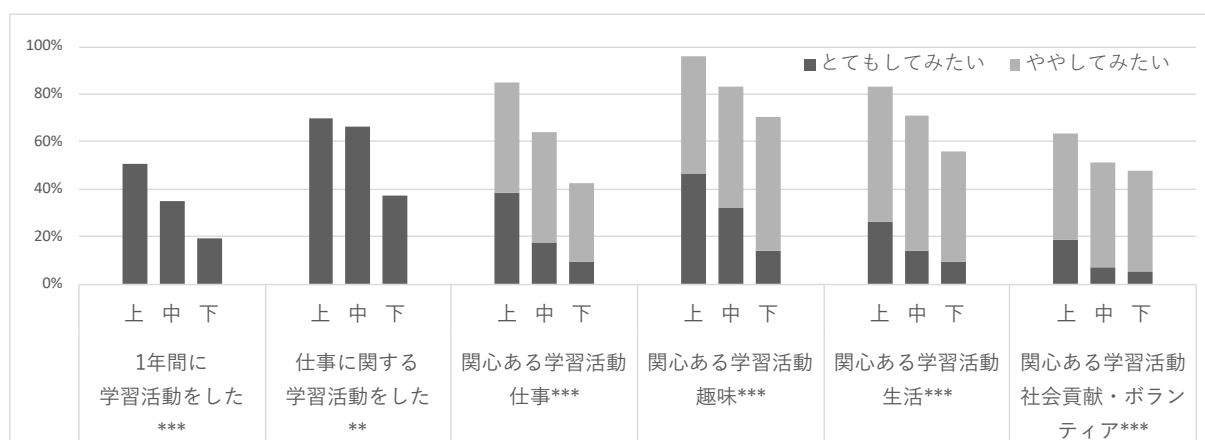
これに対し、性別（問1の1）、居住地（問1の3）、経済的なゆとり（問3後半）、地域とのつながりの強さ（問15）については、電子メディア利用度との間に統計的に有意な関連性が見られなかった。

5 「電子メディアをよく利用する人」の学習行動

それでは、情報源として電子メディアを積極的に利用する人は、生涯学習・社会教育に関連してどのような行動を取っているのだろうか。ここでは、電子メディアの利用度を基準に回答者を3つのグループに分け、学習行動の違いを検討してゆこう³。

まず分かることは、電子メディアをよく利用している人は一般的に、学習活動に対して積極的だ、ということである（図3-2）。過去1年間に学習活動を行った割合（問5）は、電子メディア利用度が上位のグループほど高く、分野別の内訳（問6）で見ると「仕事に関する学習活動」への参加率で大きな差が見られる。分野ごとの学習活動への関心度（問9）で見ても、すべての分野において、電子メディア利用度が上位のグループの方がより積極的な関心を示している。

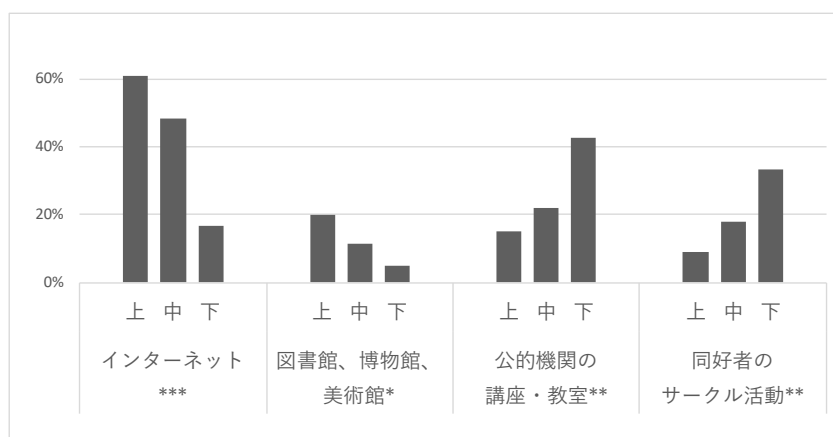
図 3-2 電子メディア利用度による学習活動の違い



次に、学習活動を行った人に対し学習活動の場所・手段を尋ねた質問（問7）の回答結果を、図3-3に示す。電子メディア利用度が上位のグループで「インターネット」と回答する割合が高いことは当然の結果と言えるが、その他に「図書館、博物館、美術館」でも、電子メディア利用度が上位のグループで利用率が高く、下位のグループでは利用率が低くなっている。

³ 以下の分析では「電子メディア利用度」によって回答者を上位（9～12点）、中位（3～8点）、下位（0～2点）の3グループに分けてクロス集計を行った。なお、図表の*印はそれぞれ、5%（*）、1%（**）、0.1%（***）の水準で統計学的に有意な差があることを示している。

図 3-3 学習活動の手段・場所 (電子メディア利用度による違い)



6 電子メディアを活用した学習行動の「見えにくさ」

反対に、電子メディア利用度の高いグループほど利用率が低いのは、「公的な機関における講座や教室」および「同好者が自主的に行っているサークル活動」である。ここから読み取ることができるのは、従来の生涯学習・社会教育観からすると「見えにくい」生涯学習行動が、電子メディアの普及に伴って拡大しつつあるという事実である。

生涯学習とは本来、学校教育以外のあらゆる学習活動を含む幅広い概念である。しかし、行政施策としては公民館や図書館・博物館といった「社会教育施設」で行われる学習活動を指すことが多く、時間に比較的余裕のある高齢者や主婦・自営業者などが、生涯学習の担い手として想定されがちだった。

しかし、電子メディアを活用した学習は、そうした公式の「学習の場」を必ずしも必要としないし、自由時間・余暇時間に行われるとも限らない。他方で、従来型の生涯学習・社会教育プログラムのなかには、新規参加者の減少やメンバーの固定化、活動のマンネリ化などに悩んでいるところが多い。

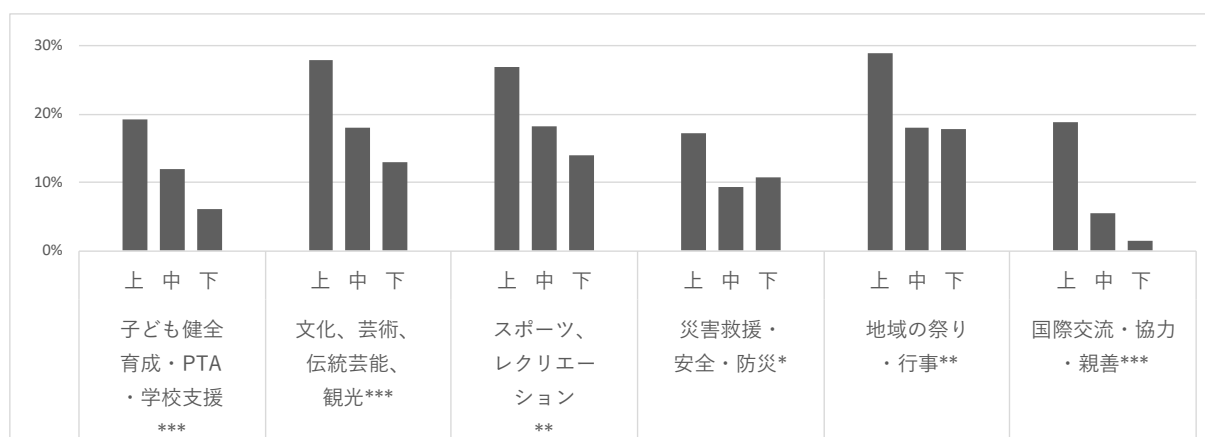
「生涯を通じた学び」の重要性が増している今日では、生涯学習・社会教育施策においても、従来の枠にとらわれない新しい発想が求められてきている。電子メディアの普及は、こうした流れをいっそう進めていくと考えることができる。

7 生涯学習・社会教育の課題

(1) 魅力的な「きっかけ」の提供

こうした「見えにくい学習行動」を読み解くヒントとして、今後参加してみたいボランティア等(問 14)の分析結果を紹介しよう。電子メディア利用度が上位のグループでは、「家庭教育・子育て支援・読み聞かせ活動」「文化、芸術、伝統芸能、観光に関する活動」「スポーツ、レクリエーションに関する活動」「災害救援・安全・防災に関する活動」「地域のお祭りや行事」「国際交流・協力・親善活動」に参加したいと答えた割合が高かった(図 3-4)。地域づくり一般というよりは、自分にとって身近な課題や、限定的・具体的なテーマに取り組む活動への関心が高いと言える。

図 3-4 関心のあるボランティアの分野 (電子メディア利用度による違い)



変化のスピードが速く、また地域社会や職場など限られた人間関係の中で完結することのない現代の生活では、自分の行うべきことを最初に決めてしまったり、ある関係に全面的に没入したりすることは難しい。反対に、はじめは身近な課題から出発したとしても学習の進展とともに他のテーマに波及したり、新たな人間関係が広がったりすることは十分にあり得る。「気軽さ」と「深さ」を併せ持った、魅力的な学習の「きっかけ」を提供することが求められているのではないだろうか。

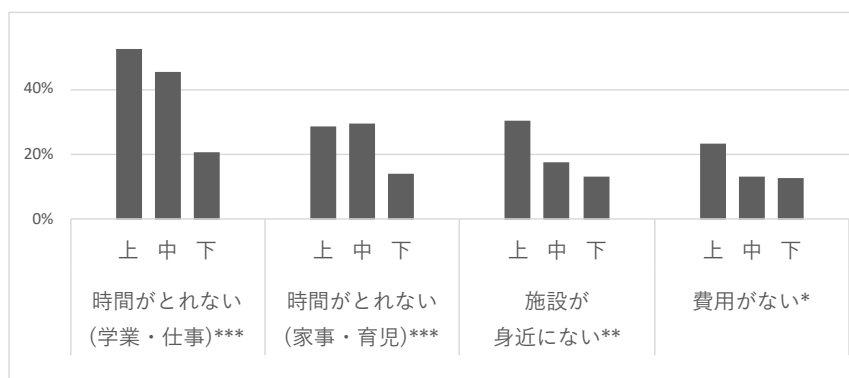
(2) バーチャルとリアルの接続

これからの生涯学習・社会教育の課題として 2 番目に指摘できるのは、バーチャルとリアル、新しいメディアを活用した学習手段と対面的なコミュニケーションを中心とした既存の学習手段とをつなぐ手法の必要性である。

この 1 年間に学習活動をしなかった人に、学習活動ができないと感じる理由を尋ねた設問 (問 8) において、電子メディア利用度が上位のグループは、「時間がとれなかった」(仕事や学業で、家事や育児・介護で)、「施設が身近になかった」、「必要な費用がなかった」という理由を選択する割合が高かった (図 3-5)。

電子メディアを活用することの利点のひとつは、時間や場所の制約を克服できることだったはずである。しかしここでは、電子メディアを積極的に利用する層の方が、学習活動の障害として時間や場所の制約を強く意識していることが分かる。

図 3-5 学習活動ができない理由 (電子メディア利用度による違い)

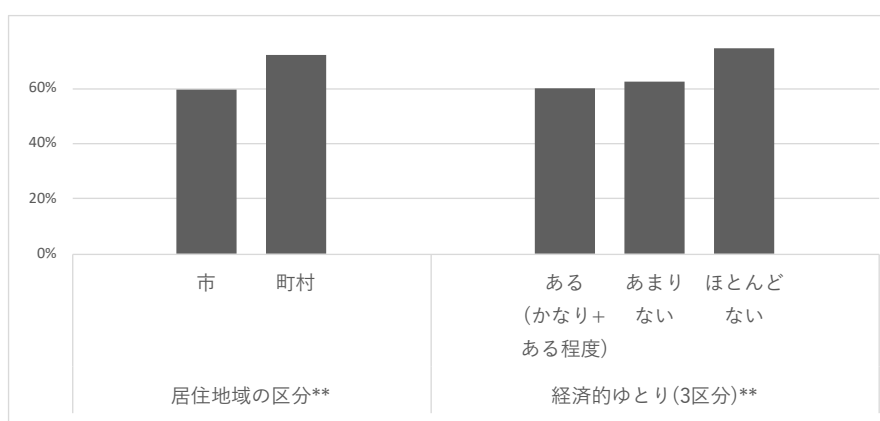


この結果は、電子メディア利用を学習活動に結びつけていく上で、「機会」や「場」が果たす役割が大きいことを示唆しているように思われる。前に紹介したように、既存のメディアの利用と電子メディアの利用とは相互排他的な関係ではない。電子メディアの利用者が単なる情報の消費者ではなく、主体的に情報を取捨選択し、あるいは情報を自ら発信していく存在となるため、既存の学習手法が果たす役割も大きいと言える。

(3) 格差への対処・是正

第 3 に指摘できる課題は、いわゆる「デジタル・ディバイド」への対処である。ここ数年で急速に普及したビデオ通話や Web 会議ツールの利用状況を尋ねた質問 (問 19) に、「使用したことがない」と答えた人の割合は、市部よりは町村部の住民に多く、経済的なゆとりが「ほとんどない」と答えた人に多い (図 3-6) 4。

図 3-6 ビデオ通話・Web 会議を利用したことの無い人の割合



デジタル・ディバイドという、電子機器の操作能力による格差がまず思い浮かぶ。本調査でも、電子メディアの利用度が年齢に大きく規定されていることは、既に紹介

4 紙面の都合があり図表では示さないが、年齢条件を一定にした分析でも上記の関連はなりたつことが確認されている。

した。しかし近年では、若年層でも経済的な理由からネットワークへの接続が制限され生活困窮状態から脱出できないといった、新たなデジタル・ディバイドの存在も指摘されている。

本調査からは、地域格差や経済的な格差が、電子メディアを活用した学びへの接近可能性に影響を及ぼす可能性があることが示唆される。格差が固定化・拡大していく現代において、個人や企業・地域社会が単独でこうした課題に対処することには限界がある。格差の是正には、地方行政をはじめとする公共政策の役割が大きいと言えるだろう。

おわりに

本稿では、「生涯学習に関する県民の意識調査」の結果から、青森県民が電子メディアを既存メディアとは別の論理で利用していること、電子メディアを積極的に活用する人々の学習行動が、従来の公的機関による、自由時間・余暇時間中心の学習観からすると「見えにくい」ものであることなどを示してきた。また、これからの生涯学習・社会教育の課題として、気軽さと深さを併せ持った学習の「きっかけ」の提供、バーチャルとリアルを接続する学習手法、地域格差・経済格差が「学び」に与える悪影響への対処・是正、の3点を指摘した。

本稿での主張は、限られた質問紙調査の分析結果から導き出されたものとしては飛躍があるかもしれない。その一方で、私たちが現在経験しつつあるのは日々の生活や人間関係のあり方、私たちの感受性などを、ゆっくりとだが根底的に変えるような変化であり、それを先取りするには多少の想像力と先駆的な実践が欠かせないようにも思われる。

本調査の結果が、生涯学習・社会教育の新しい実践のヒントとなり、また地域や分野・実施主体の違いを乗り越えた連携と協力を生み出す一助となれば幸いである。

Ⅱ 全ての県民が生涯を通じて学ぶことができる環境づくりに向けて

弘前大学 教育学部 准教授 越村 康英

はじめに

今回の「生涯学習に関する県民の意識調査」（令和 3 年度）は、「これからの新しい時代の生涯学習・社会教育推進のための施策の企画立案に資すること」を目的として実施されたものである。ここで言われる「新しい時代」とは何か。ひとつは、パンデミックが終息した後のポスト・コロナ時代であり、もうひとつは、少子高齢化・人口減少が進行していく時代ということになるだろう。こうした「新しい時代」を見据え、「全ての県民が生涯を通じて学ぶことができる環境づくり」を進めていくには、まず県民の学習活動の現状・課題について把握することが不可欠となる。

以下、本調査の結果について考察を加えつつ、コロナ禍における県民の学習活動の現状・課題について整理を試みたい。

1 県民の学習活動の現状

(1) 停滞傾向にある学習活動

まず、注目したいのは、問 5「あなたは、この 1 年間に学習活動をしましたか？」という質問への回答である。学習活動を「した」という人の割合は 31.4%であり、過半数を大きく下回る結果となっている。

この数値を読み解くために、他の類似する調査も確認しておきたい。

まずは、内閣府による「生涯学習に関する世論調査」（平成 30 年度）である。こちらは 3 年前に実施された全国調査であるが、この 1 年間に「学習したことがある」という人の割合は 58.4%となっている。

次は、青森県教育委員会による「学習活動に関する県民の意識調査」（平成 27 年度）であり、6 年前に実施された「前回調査」に当たるものである。こちらの調査では、「仕事」「趣味」「生活」「社会貢献やボランティア」という分野別に、この 1 年間に学習活動を「した」か否かを問うており、今回の調査とは設問形式が異なっている。しかし、いずれかひとつの分野でも学習活動を「した」と回答している人をカウントすれば 59.8%に上り、内閣府の調査とも大きな差は見られない結果となっている。

今回の調査は、これらの調査とは、設問形式だけでなく調査対象の範囲（年齢幅）も若干異なっており、単純に比較はできない。しかし、そのことを前提としつつも、今回の調査において、学習活動を「した」という人の割合が、近年の類似する調査の結果と比べて 25%以上も低くなっていることは軽視できない結果である。

(2) パンデミックが学習活動に及ぼしている影響

問 8「ふだんの生活の中で学習活動ができないと感じるのは、どのような理由があるときですか？」という質問において、2 番目に回答率が高かったのは、「新型コロナウイルス

ウイルス感染症への不安があるとき」(25.6%)である。この結果にも表れているとおり、県民の学習活動が停滞傾向にある主たる要因は、新型コロナウイルス感染症パンデミックによる影響と考えられる。問5の質問文にある「この1年間」とは、まさにコロナ禍の只中であり、さきに挙げた2つの調査が実施された時期とは決定的に異なる社会状況にある。

令和2年2月27日、安倍首相（当時）により全国の学校休業が要請されて以降、それに連動する形で公民館等の社会教育施設も休館が相次ぎ、講座等の社会教育事業も軒並みに中止・延期となった。そうしたなかで、高齢世代をはじめ、多くの人々が社会教育事業やサークル活動への参加を断念せざるを得ない状況が続いてきた。

【表1】は、「年齢層と学習活動の関係」を示したものである。ここにも明らかのように、60歳以上の高齢世代の人が学習活動を「した」という割合は、他の世代よりも少ない。また、「年齢層別にみる学習活動の阻害要因」を整理した【表5】を確認すると、60歳以上では「新型コロナウイルス感染症への不安があるとき」が最も多い回答となっている。このことから、新型コロナウイルス感染症パンデミックが、とくに高齢世代の学習活動に強く影響しているのではないだろうか。

【表1】年齢層と学習活動の関係 *問1-(2)×問5のクロス集計

	した	しなかった
20歳～29歳	52.6%	47.4%
30歳～39歳	39.8%	58.2%
40歳～49歳	37.3%	59.7%
50歳～59歳	34.9%	63.8%
60歳～69歳	20.5%	74.3%
70歳～79歳	26.0%	64.9%

2 県民の学習活動を阻害している要因

(1) 時間的・経済的なゆとり

県民の学習活動が停滞傾向にある要因を、新型コロナウイルス感染症パンデミックのみに限定し、「やむを得ないこと」と単純に結論付けることはできない。

問3「あなたは、現在好きなことをする時間的、経済的なゆとりはありますか？」という質問に対して、経済的な面では「あまりゆとりがない」(37.1%)、「ほとんどゆとりがない」(20.6%)と、過半数の人が「ゆとりがない」と回答している。「好きなこと＝学習活動」とは限らないものの、経済的な事情によって学習活動が制約されている人も少なくないのではないかと。

【表2】【表3】は、『時間的なゆとり』／『経済的なゆとり』と学習活動の関係を示したものであるが、「ゆとりがある」と認識している人ほど学習活動を行っている割合は高い傾向にある。このように、ゆとりの有無が学習活動に及ぼす影響は少なくない。また、「経済的なゆとり」が「ほとんどない」と認識している人のうち、学習活

動を「した」という人の割合は18.4%と著しく低い結果となっている。この結果だけでは判断できないが、「時間的なゆとり」以上に、「経済的なゆとり」が学習活動に強く影響している可能性もあるのではないか。

【表2】「時間的なゆとり」と学習活動の関係 *問3×問5のクロス集計

	した	しなかった
かなりゆとりがある	33.3%	63.6%
ある程度ゆとりがある	34.5%	59.2%
あまりゆとりがない	28.0%	70.3%
ほとんどがない	27.7%	68.9%

【表3】「経済的なゆとり」と学習活動の関係 *問3×問5のクロス集計

	した	しなかった
かなりゆとりがある	42.1%	52.6%
ある程度ゆとりがある	38.0%	56.9%
あまりゆとりがない	31.6%	65.2%
ほとんどがない	18.4%	77.0%

(2) コロナ禍におけるゆとりの変化

問4「新型コロナウイルス感染症の拡大前に比べて、時間的、経済的なゆとりは変わりましたか?」という設問に対して、「時間的なゆとり」「経済的なゆとり」ともに、「あまり変わらない」という回答が7割強となっている。しかし、経済的な面では、「ある程度ゆとりが減った」(13.5%)、「かなりゆとりが減った」(9.5%)を合わせると、コロナ禍で状況が悪化している人の割合は23.0%にも上っている。

【表4】は「コロナ禍における『経済的なゆとり』の変化と学習活動の関係」を示したものであるが、「経済的なゆとり」が減った人ほど学習活動を「しなかった」と回答している割合は高く、やはり、コロナ禍における経済的困窮が学習活動にも影響を及ぼしていることが浮き彫りとなっている。

なお、【表4】を見ると、学習活動を「しなかった」という割合が最も高いのは、経済的に「かなりゆとりが増えた」という層である。しかし、回答数が計6件(全体の0.7%)とごく少数であるため分析対象から除外したことを断っておきたい。

【表4】コロナ禍における「経済的なゆとり」の変化と学習活動の関係 *問4×問5のクロス集計

	した	しなかった
かなりゆとりが増えた	16.7%	83.3%
ある程度ゆとりが増えた	45.0%	45.0%
あまり変わらない	32.5%	62.9%
ある程度ゆとりが減った	29.8%	67.5%
かなりゆとりが減った	23.8%	73.8%

(3) 学習活動の阻害要因

時間的、経済的なゆとりも含め、何が県民の学習活動を阻害しているかを多角的・具体的に把握することは、「全ての県民が生涯を通じて学ぶことができる環境づくり」を進める上でも重要である。問8「ふだんの生活の中で学習活動ができないと感じるのは、どのような理由があるときですか？」という質問の結果については、丁寧に確認しておくことが必要である。

まず、学習活動の阻害要因として、上位5点に挙げたのは次のようなときである。

- | | |
|---------------------------------|-------|
| 1 仕事や学業が忙しくて時間がなかったとき | 33.0% |
| 2 新型コロナウイルス感染症への不安があるとき | 25.6% |
| 3 家事や育児や介護で時間がとれなかったとき | 20.1% |
| 4 講座や教室などが開かれる時間が自分の都合とあわなかったとき | 19.6% |
| 5 施設が身近になかったとき | 17.3% |

この結果に見るように、1位、3位に挙げられているのは「時間的なゆとり」に関係する要因である。仕事・家事・育児・介護等の様々な事情から学習活動が制約されている人が少なくない。こうした状況の背景には、「ワーク・ライフ・バランス」「性別役割分業意識」「孤立した育児・介護」等の社会的課題が存在することは明らかであり、それら諸課題への対策を講じていくことも学習活動を促進するための必要条件と言えよう。

また、6位には「学びや活動に必要な費用がなかったとき」(13.8%)という回答が続いているように、「経済的なゆとり」が無いことも主要な要因のひとつである。芸術・文化・スポーツ活動も含めた学習活動は、私たちがよりよく生きる(=健康で文化的な生活を営む)ために不可欠なものであり、経済的事情によって「学べる人」「学べない人」が選別されてはならない。とりわけ、公民館等の公立社会教育施設においては、受益者負担論を無条件に是とするのではなく、経済的な事情に左右されず、誰もが学習活動を行うことができるよう、必要な条件を整備確立していくことも期待される。

なお、【表5】は「年齢層別にみる学習活動の阻害要因」である。この表が示しているように、学習活動の阻害要因には年齢層による違いもあり、その特徴をふまえて対応策を検討・具体化していくことも大切であろう。

【表5】年齢層別にみる学習活動の阻害要因 *問1-(2)×問8のクロス集計

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳
仕事・学業が忙しい	24.6%①	32.7%①	27.6%①	29.6%①	17.1%②	8.0%③
家事・育児・介護で時間が無い	8.8%③	22.4%②	19.4%②	18.4%②	8.1%	5.6%
講座等の実施日時が合わない	7.0%	9.2%	16.4%③	15.8%③	17.1%②	5.6%
希望する内容がない	3.5%	3.1%	9.0%	13.2%	10.0%	7.4%
一緒に活動する仲間がいない	5.3%	7.1%	0.7%	4.6%	7.1%	7.4%
施設が近所がない	10.5%②	11.2%	13.4%	7.9%	13.3%③	9.6%②

託児等が準備されていない	1.8%	3.1%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
学習情報がない	1.8%	5.1%	6.0%	7.2%	6.7%	5.3%
学習情報の入手先が分からない	7.0%	5.1%	3.7%	7.2%	5.2%	2.1%
周囲の理解が得られない	3.5%	3.1%	5.2%	1.3%	4.3%	1.1%
費用がない	5.3%	14.2%③	14.9%	7.2%	7.6%	5.6%
コロナ感染への不安	8.8%③	8.2%	12.7%	15.8%①	23.3%①	19.1%①
その他	0.0%	3.1%	1.5%	2.0%	2.4%	6.4%
学習活動に興味がない	1.8%	6.1%	8.2%	7.2%	9.5%	6.9%
理由なし	10.5%	7.1%	6.0%	15.1%	18.6%	19.7%

※○内の数字は各年齢層における順位を表す。（「理由なし」は除く。）

（４）自由記述で挙げられている阻害要因

学習活動の阻害要因については、「その他」の自由記述にも切実な回答が含まれている。個々の回答については、17 頁をご覧ください。

特徴的なのは、「健康問題」や「障害」を理由とする回答が、高齢世代の人を中心に、一定数、寄せられていることである。これらは、回答の選択肢として設定されていなかった項目であるが、阻害要因として見過ごすことはできない。

障害者権利条約（日本：2014 年批准）には「締約国は、教育についての障害者の権利を認める。この権利を差別なしに、かつ、機会の平等を基礎として実現するため、障害者を包容するあらゆる段階の教育制度及び生涯学習を確保する」（第 24 条第 1 項）と規定されている。このことを持ち出すまでもなく、「学びたい」という意思があるにもかかわらず、障害等を理由に諦めなければならない状況は、変えていく必要がある。

また、この先、さらに高齢化が進行する中で、加齢に伴い健康問題や障害を抱える人が増えていくことも予想される。ちなみに、2045 年の青森県では、老年人口（65 歳以上）が約 385,000 人と、生産年齢人口（15～64 歳）の約 371,000 人を上回ると推計されている（国立社会保障・人口問題研究所）。こうした状況にあって、福祉・医療分野と連携した生涯学習の支援体制を整備していくことも喫緊の課題ではないか。

他方、「子どもを誰かに預けてまで自分の趣味をすることへの罪悪感と周りの目。自分が子どものことより自分のことを優先していいのか？」という葛藤はあります」との回答も無視できない。この声を、個人的な事情として片付けてしまうのではなく、葛藤の背後に存在する社会意識を問い直していくことも、子育て世代の学習活動を促進していく上で必要であろう。

3 県民の学習ニーズ

（１）年齢層別の学習ニーズ

問 9 では、「仕事」「趣味」「生活」「社会貢献やボランティア」という分野別に学習活動への関心（学習ニーズ）について質問している。【表 6】は、年齢層別に回答を集計したものである。なお、この表では、学習活動を「とてもしてみたい」と「ややして

みたい」の回答数を合計し、各分野における学習活動への関心（学習ニーズ）が「ある」という人の割合を示している。

【表6】年齢層別の学習ニーズ *問1-(2)×問9のクロス集計

	仕事	趣味	生活	社会貢献
20歳～29歳	84.2%	84.2%	78.9%	66.7%
30歳～39歳	75.5%	84.7%	73.5%	38.8%
40歳～49歳	75.4%	75.4%	67.9%	50.7%
50歳～59歳	67.8%	76.3%	63.8%	46.1%
60歳～69歳	39.0%	71.9%	53.3%	49.5%
70歳～79歳	13.8%	50.0%	30.9%	29.8%

※「とてもしてみたい」「やってみたい」の回答数を合計した数値である。

【表6】を確認すると、いずれの分野においても、総じて若い世代の方が学習活動への関心（学習ニーズ）が高い傾向にある。必然の結果とも言えるが、一方で、若い世代が、公民館等の社会教育施設を利用している割合は高くない。古くて新しい課題でもあるが、若い世代の学習活動への関心（学習ニーズ）を丹念に掘り起こし、粘り強く学習活動を組織・支援していくことも必要である。

また、いずれの年齢層でも「社会貢献やボランティアに関する学習活動」への関心（学習ニーズ）は他分野に比べて高くはないが、それでも20歳代では66.7%が「関心がある」と回答している点が特徴的である。このように、「他者や地域のために何かしたい」という若者の思いに応える学習機会を充実させていくことも期待される。

【表6】に関連して、もうひとつ注目しておきたいのは、高齢世代でも60歳代と70歳代では学習活動への関心（学習ニーズ）に大きな変化が見られることである。年齢を重ねるほど、体力・健康面でも個人差が大きくなり、そのことが結果にも反映しているものと思われる。高齢世代として一括りにするのではなく、年代によって関心（学習ニーズ）が異なることを理解し、学習活動の支援を進めていくことが重要ではないか。

（2）コロナ禍におけるニーズ

問18では、「新しい生活様式」が求められる中で始めてみたいことをたずねている。回答率が5割を超えているのは、「健康の維持・増進のための活動」（58.6%）、「家の中で過ごす時間を充実させるための活動」（53.6%）である。長引くコロナ禍にあってこれらは切実なニーズであり、活動のヒントとなるような学習機会の提供や情報発信を積極的に行っていくことも、社会教育行政や公民館等の今日的役割のひとつである。

また、コロナ禍で経済的に「かなりゆとりが減った」（9.5%）という層に限定して学習活動への関心（学習ニーズ）を確認すると、43.8%もの人が「資格取得や仕事のスキルアップ」と回答している。これは、「仕事を働きたい」「安定的な収入を得たい」と

の切実な声を反映するものであり、スキルアップに必要な資金援助も含めた支援策を早急に検討していくことも必要ではないか。こうした支援は、社会教育行政が単独で対応できるものではないが、コロナ禍で浮き彫りとなっている生涯学習の重要課題のひとつとして受け止めたい。

4 ソーシャル・キャピタルの醸成と学習活動

(1) 地域における人間関係

問 15「あなたは、自分と地域の人たちとのつながりは強いと思いますか？」という質問に対して、「強いと思う」(3.8%)、「どちらかといえば、強いと思う」(17.8%) というように、地域における人間関係が強いと認識している人は 2 割程度に留まっている。逆に、「どちらかといえば、弱いと思う」(30.5%)、「弱いと思う」(36.9%) というように、7割弱の人が地域における人間関係は希薄であると感じている。

(2) 地域のとつながりと公民館・サークル活動

【表 10】は、学習活動を行っている場所によって「地域の人たちとのつながり」に対する認識に違いが見られるかを示したものである。網掛け部分の数値にも表われているように、「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室」に参加したり、「同好者が自主的に行っているサークル活動」に参加したりしている人には、地域における人間関係が強いと感じている人の割合が高い。地域における人間関係を豊かにする上で、公民館活動やサークル活動が果たしている役割が大きいことを示しているとも言えよう。

少子高齢化・人口減少が進行する中で、誰もが安心して暮らし続けていくためには、ソーシャル・キャピタルの醸成が必要である。ソーシャル・キャピタルとは、信頼・互酬性で結ばれた「人と人とのつながり」「社会的ネットワーク」を意味する概念であり、「社会関係資本」と訳される。そして、ソーシャル・キャピタルが豊かであるほど人々の協調的な行動は活性化し、防災・防犯、子育て、地域福祉等にも良い影響をもたらすとされている。ソーシャル・キャピタルの醸成という観点からも、今一度、公民館活動やサークル活動の意義を見直してみることも大切ではないだろうか。

【表 10】 学習活動を行っている場所と「地域の人たちとのつながりの強さ」についての認識の関係

*問 7×問 15 のクロス集計

	強い	やや強い	やや弱い	弱い	わからない
インターネット	5.1%	16.2%	32.5%	41.9%	4.3%
職場	6.2%	18.5%	27.1%	42.0%	6.2%
自宅	8.1%	13.7%	30.6%	38.7%	8.9%
テレビ	7.7%	26.9%	26.9%	30.8%	7.7%
図書館・博物館	6.1%	15.1%	30.3%	36.4%	12.1%
公民館	11.3%	35.5%	30.7%	14.5%	8.1%

民間の講座等	5.4%	16.2%	40.5%	32.4%	5.4%
サークル	13.0%	32.6%	34.8%	6.5%	13.0%
学校	6.3%	25.0%	6.3%	43.8%	18.8%
その他	13.0%	21.7%	26.1%	30.4%	8.7%

(3) 地域の助け合いへの期待

問 16 では、「貧しい人や弱い立場の人がなくなる原因」について質問している。

割合が高かった回答は、「社会の助け合いの意識が不足していること」(27.2%)、「社会福祉に関する自治体の予算が少ないこと」(19.7%)である。言い換えれば、「相互扶助意識の向上」「公的福祉サービスの拡充」が必要だと考えている人が多いということになるだろう。

一方、「わからない」(18.9%)という回答も多く、「個人の努力が不足していること」(10.6%)のように自己責任の問題として認識している人も少なくない。

こうした状況にあって、貧困や社会的排除等、現代社会が直面する諸問題について、その現実や背景を科学的・構造的に理解し、問題解決の道筋を探っていくような学習機会を積極的に創り出していくことも必要ではないだろうか。

(4) 困難を抱えた住民のエンパワーメント

社会教育行政や公民館が実施する事業等に参加しているのは、比較的、安定した生活を送っている人だというのが一般的な傾向ではないだろうか。そのこと自体を否定するものではないが、社会教育行政や公民館が、困難を抱える住民から目を逸らしているような状況があるとすれば、それはあらためていく必要がある。

経済的に困窮している人、生活に必要な日本語の読み書き不自由している外国人、障害をもつ人、孤立した若者や高齢者等、地域には様々な理由で困難を抱える住民が暮らしている。しかし現状では、困難を抱える住民が、社会教育行政や公民館が実施する事業等に参加しているケースは少ない。今後、社会教育行政や公民館には、そうした住民が直面している切実な生活課題や学習ニーズを鋭くつかみ取り、それに応え、課題解決やエンパワーメントに資するような学習活動を支援していくことが期待される。多様な機関・団体等と連携し、本腰を入れてチャレンジしていくことが、持続可能でインクルーシブな地域づくりにもつながっていくはずである。

おわりに

今回の調査を通じて、新型コロナウイルス感染症パンデミックが、県民の学習活動にも深刻な影響を与えていることが浮き彫りとなった。しかし一方、社会教育行政や公民館をはじめとする様々な主体が、感染防止に細心の注意を払いつつ、葛藤や試行錯誤を繰り返しながら「学びを止めない」ための取り組みを進めてきたことも事実である。オンラインの導入・活用も含め、ひとつひとつはささやかな一歩かもしれないが、そこに至るまでの葛藤や試行錯誤の中にこそ、ポスト・コロナ時代の学習支援を切り拓くためのヒントがあるのではないか。いまこそ、そうした取り組みを共有し、

深め合っていくときである。

また、調査結果を分析し、コロナ禍における県民の学習活動の現状・課題について整理を試みる中で、次の2つの点から「生涯学習に対する認識」を問い直す必要性も感じている。

ひとつは、生涯学習には多様なスタイルがある（あってよい）ということである。コロナ禍にあって、対面による学習活動が制限される中で、対面であることの価値が再確認される一方、多様な形態による学習活動も着実に広がりつつある。オンラインを活用した「学びやつながりの創出」は、その最たるものである。そうした広がりに着目してみることで、ポスト・コロナ時代につながる「学習活動の新たな息吹き」を捉えることもできるだろう。

そしてもうひとつは、生涯学習というものを、「日々の暮らしにちょっとした彩りを添える程度の営み」ではなく、「人々の文化的生存権と直結し、生きることと不可分の営み」として位置づけ直すということである。長引くコロナ禍によって、様々な生活課題や地域的・社会的課題が顕在化・深刻化している。また、少子高齢化・人口減少が進行していく中で、誰もが安心して暮らし続けられる地域・社会を自治的に創造していくことが喫緊の課題となっている。そこで重要なカギとなるのが生涯学習である。個々の「生活課題」を結び、「地域的・社会的課題」や「世界的課題」と串刺しにして捉え、よりよい未来を切り拓くための実践的力量を培っていくような「グローバルな学習活動」を生涯学習の基軸として再定位し、より積極的に奨励・支援していくことを期待したい。

第4章 資料

調査結果単純集計表

◎結果数値（パーセント＝％）は、少数第2位を四捨五入して少数第1位まで表示しています。

◎標準の有効回答数はn=843となります。複数回答ならびに質問で分岐する際はn値が変動します。

問1 あなたの性別と年齢層及びお住まいの地域について教えてください。

(1) 性別

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
有効	1 男性	342	40.6%	40.8%	40.8%
	2 女性	488	57.9%	58.2%	99.0%
	3 回答しない	8	0.9%	1.0%	100.0%
	合計	838	99.4%	100.0%	
欠損値	無回答	5	0.6%		
合計		843	100.0%		

(2) 年齢層

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
有効	1 20歳～29歳	57	6.8%	6.8%	6.8%
	2 30歳～39歳	98	11.6%	11.7%	18.4%
	3 40歳～49歳	134	15.9%	15.9%	34.4%
	4 50歳～59歳	152	18.0%	18.1%	52.4%
	5 60歳～69歳	210	24.9%	25.0%	77.4%
	6 70歳～79歳	188	22.3%	22.4%	99.8%
	7 上記1～6に該当がない	2	0.2%	0.2%	100.0%
	合計	841	99.8%	100.0%	
欠損値	無回答	2	0.2%		
合計		843	100.0%		

(3) お住まいの地域と区分（地区名）

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
有効	1 東青	192	22.8%	23.6%	23.6%
	2 西北	97	11.5%	11.9%	35.6%
	3 中南	182	21.6%	22.4%	58.0%
	4 上北	99	11.7%	12.2%	70.2%
	5 下北	38	4.5%	4.7%	74.9%
	6 三八	204	24.2%	25.1%	100.0%
	合計	812	96.3%	100.0%	
欠損値	無回答	31	3.7%		
合計		843	100.0%		

(3) お住まいの地域と区分（区分）

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
有効	A 市	598	70.9%	76.0%	76.0%
	B 町または村	189	22.4%	24.0%	100.0%
	合計	787	93.4%	100.0%	
欠損値	無回答	56	6.6%		
合計		843	100.0%		

問2 あなたの仕事と最後に卒業した学校について教えてください。（仕事について）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
ア 学生	10	1.2%	1.2%	1.2%
イ 自営業(農業・漁業等含む)	122	14.5%	14.7%	15.9%
ウ 正規雇用	318	37.7%	38.4%	54.3%
エ 非正規雇用(パート、アルバイト等)	140	16.6%	16.9%	71.2%
オ 無職	218	25.9%	26.3%	97.5%
カ 上記以外	21	2.5%	2.5%	100.0%
合計	829	98.3%	100.0%	
欠損値 無回答	14	1.7%		
合計	843	100.0%		

あなたの仕事と最後に卒業した学校について教えてください。（最後に卒業した学校）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 小学校	1	0.1%	0.1%	0.1%
2 中学校	89	10.6%	10.6%	10.7%
3 高等学校	392	46.5%	46.7%	57.4%
4 高等専門学校、専修・専門学校	121	14.4%	14.4%	71.8%
5 大学、短期大学、大学院	231	27.4%	27.5%	99.3%
6 上記以外	6	0.7%	0.7%	100.0%
合計	840	99.6%	100.0%	
欠損値 無回答	3	0.4%		
合計	843	100.0%		

問3 あなたは、現在好きなことをする時間的、経済的なゆとりがありますか？（時間的なゆとり）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 かなりゆとりがある	99	11.7%	11.8%	11.8%
2 ある程度ゆとりがある	377	44.7%	44.8%	56.6%
3 あまりゆとりがない	246	29.2%	29.3%	85.9%
4 ほとんどゆとりがない	119	14.1%	14.1%	100.0%
合計	841	99.8%	100.0%	
欠損値 無回答	2	0.2%		
合計	843	100.0%		

あなたは、現在好きなことをする時間的、経済的なゆとりがありますか？（経済的なゆとり）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 かなりゆとりがある	19	2.3%	2.3%	2.3%
2 ある程度ゆとりがある	332	39.4%	39.6%	41.9%
3 あまりゆとりがない	313	37.1%	37.4%	79.2%
4 ほとんどゆとりがない	174	20.6%	20.8%	100.0%
合計	838	99.4%	100.0%	
欠損値 無回答	5	0.6%		
合計	843	100.0%		

問4 新型コロナウイルス感染症の拡大前に比べて、時間的、経済的なゆとりは変わりましたか？
(時間的なゆとり)

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 かなりゆとりが増えた	38	4.5%	4.5%	4.5%
2 ある程度ゆとりが増えた	67	7.9%	8.0%	12.5%
3 あまり変わらない	650	77.1%	77.3%	89.8%
4 ある程度ゆとりが減った	56	6.6%	6.7%	96.4%
5 かなりゆとりが減った	30	3.6%	3.6%	100.0%
合計	841	99.8%	100.0%	
欠損値 無回答	2	0.2%		
合計	843	100.0%		

新型コロナウイルス感染症の拡大前に比べて、時間的、経済的なゆとりは変わりましたか？
(経済的なゆとり)

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 かなりゆとりが増えた	6	0.7%	0.7%	0.7%
2 ある程度ゆとりが増えた	20	2.4%	2.4%	3.1%
3 あまり変わらない	622	73.8%	73.9%	77.0%
4 ある程度ゆとりが減った	114	13.5%	13.5%	90.5%
5 かなりゆとりが減った	80	9.5%	9.5%	100.0%
合計	842	99.9%	100.0%	
欠損値 無回答	1	0.1%		
合計	843	100.0%		

問5 あなたは、この1年間に学習活動をしましたか？

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 した	265	31.4%	32.8%	32.8%
	2 しなかった	542	64.3%	67.2%	100.0%
	合計	807	95.7%	100.0%	
欠損値	無回答	36	4.3%		
合計		843	100.0%		

問6 次の1から5のそれぞれの分野ごとにお答えください。

1 仕事に関する学習活動（仕事をする上で役に立つことや転職のためなど）

n=265

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 した	154	58.1%	59.5%	59.5%
	2 しなかった	105	39.6%	40.5%	100.0%
	合計	259	97.7%	100.0%	
欠損値	無回答	6	2.3%		
合計		265	100.0%		

問6 次の1から5のそれぞれの分野ごとにお答えください。

2 趣味に関する学習活動（習い事や練習、スポーツなど）

n=265

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 した	136	51.3%	52.5%	52.5%
	2 しなかった	123	46.4%	47.5%	100.0%
	合計	259	97.7%	100.0%	
欠損値	無回答	6	2.3%		
合計		265	100.0%		

問6 次の1から5のそれぞれの分野ごとにお答えください。

3 生活に関する学習活動（料理教室や健康、子育てに関することなど）

n=265

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 した	80	30.2%	30.9%	30.9%
	2 しなかった	179	67.5%	69.1%	100.0%
	合計	259	97.7%	100.0%	
欠損値	無回答	6	2.3%		
合計		265	100.0%		

問6 次の1から5のそれぞれの分野ごとにお答えください。

4 社会貢献やボランティアに関する学習活動（地域の行事や子ども、障害者との交流など）

n=265

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 した	62	23.4%	23.9%	23.9%
	2 しなかった	197	74.3%	76.1%	100.0%
	合計	259	97.7%	100.0%	
欠損値	無回答	6	2.3%		
合計		265	100.0%		

問6 次の1から5のそれぞれの分野ごとにお答えください。

5 その他

n=265

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 した	8	3.0%	3.1%	3.1%
	2 しなかった	251	94.7%	96.9%	100.0%
	合計	259	97.7%	100.0%	
欠損値	無回答	6	2.3%		
合計		265	100.0%		

問7 学習活動は主にどこで行いましたか？

n=265

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 インターネット	117	44.2%		
2 職場の教育、研修	81	30.6%		
3 自宅での学習活動	124	46.8%		
4 テレビやラジオ	26	9.8%		
5 図書館、博物館、美術館	33	12.5%		
6 公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室	62	23.4%		
7 スポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育	37	14.0%		
8 同好者が自主的に行っているサークル活動	46	17.4%		
9 高校や大学等での講座や教室	16	6.0%		
10 その他	23	8.7%		
合計	565	213.2%		
欠損値 無回答	2	0.8%		
合計	567	214.0%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える

問8 ふだんの生活の中で学習活動ができないと感じるのは、どのような理由があるときですか？

n=542

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 仕事や学業が忙しくて時間がなかったとき	179	33.0%		
2 家事や育児や介護で時間がとれなかったとき	109	20.1%		
3 講座や教室などが開かれる時間が自分の都合にあわなかったとき	106	19.6%		
4 希望する学びの内容がなかったとき	72	13.3%		
5 一緒に学習する仲間が見つからないとき	48	8.9%		
6 施設が身近になかったとき	94	17.3%		
7 託児室やプレールームなどが準備されていなかったとき	7	1.3%		
8 学びや活動に関する情報が手に入らなかったとき	49	9.0%		
9 学びや活動に関する情報の入手先がわからなかったとき	41	7.6%		
10 家族や職場の理解や協力が得られなかったとき	25	4.6%		
11 学びや活動に必要な費用がなかったとき	75	13.8%		
12 新型コロナウイルス感染症への不安があるとき	139	25.6%		
13 その他	25	4.6%		
14 学びや活動をすることに興味がない	63	11.6%		
15 特に理由はない	120	22.1%		
合計	1152	212.5%		
欠損値 無回答	117	21.6%		
合計	1269	234.1%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える

問9 あなたが今後、学習活動をする場合、次の1から4のそれぞれについて、どの程度関心がありますか？

1 仕事に関する学習活動（仕事をする上で役に立つことや転職のためなど）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
とでもしてみたい	144	17.1%	20.8%	20.8%
ややしてみたい	291	34.5%	42.1%	62.9%
あまりしたくない	177	21.0%	25.6%	88.4%
まったくしたくない	80	9.5%	11.6%	100.0%
合計	692	82.1%	100.0%	
欠損値 無回答	151	17.9%		
合計	843	100.0%		

問9 あなたが今後、学習活動をする場合、次の1から4のそれぞれについて、どの程度関心がありますか？

2 趣味に関する学習活動（習い事や練習、スポーツなど）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
とでもしてみたい	222	26.3%	30.4%	30.4%
ややしてみたい	376	44.6%	51.4%	81.8%
あまりしたくない	103	12.2%	14.1%	95.9%
まったくしたくない	30	3.6%	4.1%	100.0%
合計	731	86.7%	100.0%	
欠損値 無回答	112	13.3%		
合計	843	100.0%		

問9 あなたが今後、学習活動をする場合、次の1から4のそれぞれについて、どの程度関心がありますか？

3 生活に関する学習活動（料理教室や健康、子育てに関することなど）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
とでもしてみたい	117	13.9%	17.0%	17.0%
ややしてみたい	360	42.7%	52.4%	69.4%
あまりしたくない	155	18.4%	22.6%	92.0%
まったくしたくない	55	6.5%	8.0%	100.0%
合計	687	81.5%	100.0%	
欠損値 無回答	156	18.5%		
合計	843	100.0%		

問9 あなたが今後、学習活動をする場合、次の1から4のそれぞれについて、どの程度関心がありますか？

4 社会貢献やボランティアに関する学習活動（地域の行事や子ども、障害者との交流など）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
とでもしてみたい	68	8.1%	9.7%	9.7%
ややしてみたい	308	36.5%	44.1%	53.8%
あまりしたくない	252	29.9%	36.1%	89.8%
まったくしたくない	71	8.4%	10.2%	100.0%
合計	699	82.9%	100.0%	
欠損値 無回答	144	17.1%		
合計	843	100.0%		

問10 あなたは、仕事以外のボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動などに関心がありますか？

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 非常に関心がある	67	7.9%	8.0%	8.0%
2 ある程度関心がある	377	44.7%	45.1%	53.2%
3 あまり関心がない	322	38.2%	38.6%	91.7%
4 まったく関心がない	69	8.2%	8.3%	100.0%
合計	835	99.1%	100.0%	
欠損値 無回答	8	0.9%		
合計	843	100.0%		

問11 あなたは、仕事以外のボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動などをしてしていますか？

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 している	202	24.0%	24.7%	24.7%
2 していない	616	73.1%	75.3%	100.0%
合計	818	97.0%	100.0%	
欠損値 無回答	25	3.0%		
合計	843	100.0%		

問12 あなたは、仕事以外で、どのようなボランティアや地位での活動、社会の役に立つ活動をしてしていますか？

n=202

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 高齢者の手助けなどの福祉に関する活動	35	17.3%		
2 障害のある方の手助けなどの福祉に関する活動	19	9.4%		
3 生活困窮者の支援などの福祉に関する活動	14	6.9%		
4 家庭教育・子育て支援・読み聞かせ活動	15	7.4%		
5 男女共同参画に関することや人権を守る活動	7	3.5%		
6 子どもの健全育成やPTA活動・学校を支援する活動	47	23.3%		
7 地域づくり・まちづくりに関する活動	47	23.3%		
8 文化、芸術、伝統芸能、観光に関する活動	28	13.9%		
9 スポーツ、レクリエーションに関する活動	28	13.9%		
10 清掃、環境保護・保全活動	63	31.2%		
11 町内会・自治会・消防団などの地域での活動	92	45.5%		
12 防犯・交通安全運動	13	6.4%		
13 災害救援・安全・防災に関する活動	13	6.4%		
14 地域のお祭りや行事	49	24.3%		
15 国際交流・協力・親善活動	15	7.4%		
16 その他	6	3.0%		
合計	491	243.1%		
欠損値 無回答	1	0.5%		
合計	492	243.6%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える

問13 あなたがボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動に参加していない理由はなんですか？

n=616

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 仕事が忙しい	259	42.0%		
2 家庭のことで忙しい	224	36.4%		
3 友人や知人などからの誘いがない	66	10.7%		
4 人間関係や近所づきあいを広げたくない	86	14.0%		
5 何かしらの責任や役目を負わされたくない	132	21.4%		
6 広報やチラシなどの情報が届かない(見逃している)	58	9.4%		
7 近くに興味のある活動がない	123	20.0%		
8 そもそもボランティアや地域活動、社会貢献活動に興味がない	101	16.4%		
9 その他	66	10.7%		
合計	1115	181.0%		
欠損値 無回答	37	6.0%		
合計	1152	187.0%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える

問14 あなたは 今後どのようなボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動に参加してみたいですか？

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 高齢者の手助けなどの福祉に関する活動	155	18.4%		
2 障害のある方の手助けなどの福祉に関する活動	108	12.8%		
3 生活困窮者の支援などの福祉に関する活動	64	7.6%		
4 家庭教育・子育て支援・読み聞かせ活動	110	13.0%		
5 男女共同参画に関することや人権を守る活動	36	4.3%		
6 子どもの健全育成やPTA活動・学校を支援する活動	90	10.7%		
7 地域づくり・まちづくりに関する活動	175	20.8%		
8 文化、芸術、伝統芸能、観光に関する活動	148	17.6%		
9 スポーツ、レクリエーションに関する活動	154	18.3%		
10 清掃、環境保護・保全活動	181	21.5%		
11 町内会・自治会・消防団などの地域での活動	100	11.9%		
12 防犯・交通安全運動	56	6.6%		
13 災害救援・安全・防災に関する活動	89	10.6%		
14 地域のお祭りや行事	164	19.5%		
15 国際交流・協力・親善活動	59	7.0%		
16 その他	77	9.1%		
合計	1766	209.5%		
欠損値 無回答	52	6.2%		
合計	1818	215.7%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える

問15 あなたは、自分と地域の人たちとのつながりは強いと思いますか？

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 強いと思う	32	3.8%	3.8%	3.8%
2 どちらかといえば、強いと思う	150	17.8%	17.9%	21.7%
3 どちらかといえば、弱いと思う	257	30.5%	30.7%	52.4%
4 弱いと思う	311	36.9%	37.2%	89.6%
5 わからない	87	10.3%	10.4%	100.0%
合計	837	99.3%	100.0%	
欠損値 無回答	6	0.7%		
合計	843	100.0%		

問16 あなたは、貧しい人や弱い立場の人がなくなる原因は何だと考えますか？

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 社会福祉に関する自治体の予算が少ないこと	166	19.7%	21.6%	21.6%
2 隣近所が無関心であること	59	7.0%	7.7%	29.3%
3 社会の助け合いの意識が不足していること	229	27.2%	29.9%	59.2%
4 個人の努力が不足していること	91	10.8%	11.9%	71.1%
5 その他	63	7.5%	8.2%	79.3%
6 わからない	159	18.9%	20.7%	100.0%
合計	767	91.0%	100.0%	
欠損値 無回答	76	9.0%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

1 仕事に役立つ学び情報（テレビ・ラジオ）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	319	37.8%	41.9%	41.9%
時々利用する	189	22.4%	24.8%	66.7%
あまり利用しない	133	15.8%	17.5%	84.1%
ほとんど利用しない	121	14.4%	15.9%	100.0%
合計	762	90.4%	100.0%	
欠損値 無回答	81	9.6%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

1 仕事に役立つ学び情報（新聞・チラシ・フリーペーパー）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	211	25.0%	28.0%	28.0%
時々利用する	242	28.7%	32.1%	60.1%
あまり利用しない	128	15.2%	17.0%	77.1%
ほとんど利用しない	173	20.5%	22.9%	100.0%
合計	754	89.4%	100.0%	
欠損値 無回答	89	10.6%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

1 仕事に役立つ学び情報（行政機関の広報誌、回覧板）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	137	16.3%	18.4%	18.4%
時々利用する	239	28.4%	32.1%	50.5%
あまり利用しない	187	22.2%	25.1%	75.7%
ほとんど利用しない	181	21.5%	24.3%	100.0%
合計	744	88.3%	100.0%	
欠損値 無回答	99	11.7%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

1 仕事に役立つ学び情報（ホームページ、LINEやFacebookなどのSNS）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	215	25.5%	29.2%	29.2%
時々利用する	153	18.1%	20.8%	49.9%
あまり利用しない	95	11.3%	12.9%	62.8%
ほとんど利用しない	274	32.5%	37.2%	100.0%
合計	737	87.4%	100.0%	
欠損値 無回答	106	12.6%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

1 仕事に役立つ学び情報（友人や知人の口コミ）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	90	10.7%	12.2%	12.2%
時々利用する	266	31.6%	36.2%	48.4%
あまり利用しない	177	21.0%	24.1%	72.5%
ほとんど利用しない	202	24.0%	27.5%	100.0%
合計	735	87.2%	100.0%	
欠損値 無回答	108	12.8%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

2 趣味に役立つ学び情報（テレビ・ラジオ）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	271	32.1%	36.0%	36.0%
時々利用する	218	25.9%	29.0%	64.9%
あまり利用しない	134	15.9%	17.8%	82.7%
ほとんど利用しない	130	15.4%	17.3%	100.0%
合計	753	89.3%	100.0%	
欠損値 無回答	90	10.7%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

2 趣味に役立つ学び情報（新聞・チラシ・フリーペーパー）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	148	17.6%	19.8%	19.8%
時々利用する	258	30.6%	34.5%	54.3%
あまり利用しない	147	17.4%	19.7%	73.9%
ほとんど利用しない	195	23.1%	26.1%	100.0%
合計	748	88.7%	100.0%	
欠損値 無回答	95	11.3%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

2 趣味に役立つ学び情報（行政機関の広報誌、回覧板）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	80	9.5%	10.9%	10.9%
時々利用する	191	22.7%	26.0%	36.9%
あまり利用しない	230	27.3%	31.3%	68.2%
ほとんど利用しない	234	27.8%	31.8%	100.0%
合計	735	87.2%	100.0%	
欠損値 無回答	108	12.8%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

2 趣味に役立つ学び情報（ホームページ、LINEやFacebookなどのSNS）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	264	31.3%	35.6%	35.6%
時々利用する	152	18.0%	20.5%	56.1%
あまり利用しない	90	10.7%	12.1%	68.2%
ほとんど利用しない	236	28.0%	31.8%	100.0%
合計	742	88.0%	100.0%	
欠損値 無回答	101	12.0%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

2 趣味に役立つ学び情報（友人や知人の口コミ）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	152	18.0%	20.3%	20.3%
時々利用する	256	30.4%	34.2%	54.5%
あまり利用しない	158	18.7%	21.1%	75.7%
ほとんど利用しない	182	21.6%	24.3%	100.0%
合計	748	88.7%	100.0%	
欠損値 無回答	95	11.3%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

3 生活に役立つ学び情報（テレビ・ラジオ）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	370	43.9%	48.1%	48.1%
時々利用する	255	30.2%	33.1%	81.2%
あまり利用しない	69	8.2%	9.0%	90.1%
ほとんど利用しない	76	9.0%	9.9%	100.0%
合計	770	91.3%	100.0%	
欠損値 無回答	73	8.7%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

3 生活に役立つ学び情報（新聞・チラシ・フリーペーパー）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	231	27.4%	30.4%	30.4%
時々利用する	292	34.6%	38.4%	68.8%
あまり利用しない	99	11.7%	13.0%	81.8%
ほとんど利用しない	138	16.4%	18.2%	100.0%
合計	760	90.2%	100.0%	
欠損値 無回答	83	9.8%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

3 生活に役立つ学び情報（行政機関の広報誌、回覧板）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	122	14.5%	16.4%	16.4%
時々利用する	254	30.1%	34.1%	50.5%
あまり利用しない	202	24.0%	27.2%	77.7%
ほとんど利用しない	166	19.7%	22.3%	100.0%
合計	744	88.3%	100.0%	
欠損値 無回答	99	11.7%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

3 生活に役立つ学び情報（ホームページ、LINEやFacebookなどのSNS）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	241	28.6%	32.6%	32.6%
時々利用する	173	20.5%	23.4%	55.9%
あまり利用しない	101	12.0%	13.6%	69.6%
ほとんど利用しない	225	26.7%	30.4%	100.0%
合計	740	87.8%	100.0%	
欠損値 無回答	103	12.2%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

3 生活に役立つ学び情報（友人や知人の口コミ）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	137	16.3%	18.5%	18.5%
時々利用する	288	34.2%	39.0%	57.5%
あまり利用しない	159	18.9%	21.5%	79.0%
ほとんど利用しない	155	18.4%	21.0%	100.0%
合計	739	87.7%	100.0%	
欠損値 無回答	104	12.3%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

4 ボランティアに役立つ情報（テレビ・ラジオ）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	86	10.2%	11.4%	11.4%
時々利用する	102	12.1%	13.5%	25.0%
あまり利用しない	239	28.4%	31.7%	56.7%
ほとんど利用しない	326	38.7%	43.3%	100.0%
合計	753	89.3%	100.0%	
欠損値 無回答	90	10.7%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

4 ボランティアに役立つ情報（新聞・チラシ・フリーペーパー）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	65	7.7%	8.9%	8.9%
時々利用する	108	12.8%	14.8%	23.6%
あまり利用しない	221	26.2%	30.2%	53.8%
ほとんど利用しない	338	40.1%	46.2%	100.0%
合計	732	86.8%	100.0%	
欠損値 無回答	111	13.2%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

4 ボランティアに役立つ情報（行政機関の広報誌、回覧板）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	74	8.8%	9.7%	9.7%
時々利用する	150	17.8%	19.8%	29.5%
あまり利用しない	230	27.3%	30.3%	59.8%
ほとんど利用しない	305	36.2%	40.2%	100.0%
合計	759	90.0%	100.0%	
欠損値 無回答	84	10.0%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

4 ボランティアに役立つ情報（ホームページ、LINEやFacebookなどのSNS）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	61	7.2%	8.3%	8.3%
時々利用する	88	10.4%	12.0%	20.4%
あまり利用しない	188	22.3%	25.7%	46.0%
ほとんど利用しない	395	46.9%	54.0%	100.0%
合計	732	86.8%	100.0%	
欠損値 無回答	111	13.2%		
合計	843	100.0%		

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？

4 ボランティアに役立つ情報（友人や知人の口コミ）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
よく利用する	53	6.3%	7.2%	7.2%
時々利用する	134	15.9%	18.3%	25.5%
あまり利用しない	205	24.3%	28.0%	53.6%
ほとんど利用しない	340	40.3%	46.4%	100.0%
合計	732	86.8%	100.0%	
欠損値 無回答	111	13.2%		
合計	843	100.0%		

問18 新しい生活様式が求められている現在、どんなことを始めてみたいですか？

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 家の中で過ごす時間を充実させるための活動(家の片づけなど)	452	53.6%		
2 健康の維持・増進のための活動	494	58.6%		
3 オンラインを活用した他者との交流や情報発信(Zoom、YouTubeなど)	84	10.0%		
4 教養を高めるための学習活動	200	23.7%		
5 資格取得や仕事のスキルアップ	221	26.2%		
6 ボランティアや地域活動・社会貢献活動	121	14.4%		
7 始めてみたいものがない	133	15.8%		
合計	1705	202.3%		
欠損値 無回答	12	1.4%		
合計	1717	203.7%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える

問19 ビデオ通話やWeb会議システム（Zoom、Skype等）を使用したことがありますか？

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 新型コロナウイルス感染症の拡大前から使用していた	116	13.8%	13.8%	13.8%
2 新型コロナウイルス感染症の拡大後使用するようになった	186	22.1%	22.2%	36.0%
3 使用したことがない	537	63.7%	64.0%	100.0%
合計	839	99.5%	100.0%	
欠損値 無回答	4	0.5%		
合計	843	100.0%		

問20 今後、ビデオ通話やWeb会議システム（Zoom、Skype等）を使用したオンライン講座を受講したいですか？

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 受講したい	227	26.9%	27.2%	27.2%
2 受講したいが、環境が整わない(Wi-Fi、パソコンなど)	149	17.7%	17.8%	45.0%
3 受講したくない	459	54.4%	55.0%	100.0%
合計	835	99.1%	100.0%	
欠損値 無回答	8	0.9%		
合計	843	100.0%		

県民のみなさまへ

青森県 教育委員会

生涯学習に関する県民の意識調査

【アンケート調査へご協力をお願い】

この調査は、学習活動^{*}、ボランティア活動、地域での活動や社会貢献活動に関して、みなさまがお考えになっていることや望んでいること、また、新型コロナウイルス感染症拡大が生涯学習にどのような影響を与えたのかなどを把握し、今後の青森県の生涯学習・社会教育の施策に役立てるための資料となります。

このアンケート結果は、青森県教育委員会のホームページに掲載します。

つきましては、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

※「学習活動」とは？ この調査で使用する「学習活動」という言葉の意味は、お一人お一人が、ご自身の人生を豊かにするために見聞を広めたり、技術を向上させたりするために行う活動のことをいいます。

例えば、学校での勉強、学校外等で自分から進んで行う学びや勉強、趣味や習い事、大学や専門学校での公開講座やセミナー、公民館などでの学級や講演会に参加することが学習活動にあたります。

【ご記入にあたって】

- 1 この調査は**無記名**です。(あなたのお名前を書くところはありません)
- 2 必ず、宛名の**ご本人**が**ご回答**くださるようお願いいたします。
- 3 回答は、この**調査用紙に、直接**、ご記入ください。

【ご返送のお願い】

お手数ですが、同封の返信用封筒(切手不要)にこの調査用紙を入れて、**令和3年8月6日までにポストへ投かん**して下さるようお願いいたします。

この調査の対象者は、みなさまがお住まいの市町村の許可を得て、無作為に選ばせていただきました。

【本調査に関するお問い合わせ先】

青森県教育庁生涯学習課

〒030-8540 青森市長島一丁目1番1号

担当者：高橋

TEL 017-734-9888 受付：平日 8:30～17:15

本調査は、**青森県教育委員会**が実施していますが、アンケートの送付・回収等の業務を「㈱サンブラッソ・エイティーブイ」に委託して実施しております。

問1 あなたの性別と年齢層及びお住まいの地域について教えてください。

(1) 性別 (いずれか1つに○)												
1	男性	2	女性	3	回答しない							
(2) 年齢層 (いずれか1つに○)												
1	20歳～29歳		4	50歳～59歳								
2	30歳～39歳		5	60歳～69歳								
3	40歳～49歳		6	70歳～79歳								
(3) お住まいの地域と区分 (地区名、区分それぞれ1つずつ○)												
(地区名)	1	東青	2	西北	3	中南	4	上北	5	下北	6	三八
(区分)	A	市	B	町または村								

問2 あなたの仕事と最後に卒業した学校について教えてください。

(それぞれの枠の中から1つずつに○)

仕事について

- ア 学生
- イ 自営業 (農業・漁業等含む)
- ウ 正規雇用
- エ 非正規雇用 (パート、アルバイト等)
- オ 無職
- カ 上記以外 ()

最後に卒業した学校

- 1 小学校
- 2 中学校
- 3 高等学校
- 4 高等専門学校、専修・専門学校
- 5 大学、短期大学、大学院
- 6 上記以外 ()

問3 あなたは、現在好きなことをする時間的、経済的なゆとりがありますか？

(それぞれの枠の中から1つずつに○)

時間的なゆとり

- 1 かなりゆとりがある
- 2 ある程度ゆとりがある
- 3 あまりゆとりがない
- 4 ほとんどゆとりがない

経済的なゆとり

- 1 かなりゆとりがある
- 2 ある程度ゆとりがある
- 3 あまりゆとりがない
- 4 ほとんどゆとりがない

問4 新型コロナウイルス感染症の拡大前に比べて、時間的、経済的なゆとりは変わりましたか？ (それぞれの枠の中から1つずつに○)

時間的なゆとり

- 1 かなりゆとりが増えた
- 2 ある程度ゆとりが増えた
- 3 あまり変わらない
- 4 ある程度ゆとりが減った
- 5 かなりゆとりが減った

経済的なゆとり

- 1 かなりゆとりが増えた
- 2 ある程度ゆとりが増えた
- 3 あまり変わらない
- 4 ある程度ゆとりが減った
- 5 かなりゆとりが減った

問5 あなたは、この1年間に学習活動をしましたか？（どちらかに○）

- 1 した ⇒ 問6・問7を回答し、その後問9に進む
- 2 しなかった ⇒ 問8へ飛んで回答し、問9に進む

問6 次の1から5のそれぞれの分野ごとにお答えください。（どちらかに○）

- | | |
|--|----------|
| 1 仕事に関する学習活動<仕事をする上で役に立つことや転職のためなど> | した・しなかった |
| 2 趣味に関する学習活動<習い事や練習、スポーツなど> | した・しなかった |
| 3 生活に関する学習活動<料理教室や健康、子育てに関することなど> | した・しなかった |
| 4 社会貢献やボランティアに関する学習活動<地域の行事や子ども、障害者との交流など> | した・しなかった |
| 5 その他（ | ） |

問7 学習活動は主にどこで行いましたか？（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------|--------------------------------|
| 1 インターネット | 6 公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室 |
| 2 職場の教育、研修 | 7 スポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育 |
| 3 自宅での学習活動 | 8 同好者が自主的に行っているサークル活動 |
| 4 テレビやラジオ | 9 高校や大学等での講座や教室 |
| 5 図書館、博物館、美術館 | 10 その他 |

問8 ふだんの生活の中で学習活動ができないと感じるのは、どのような理由があるときですか？（あてはまるものすべてに○）

- 1 仕事や学業が忙しくて時間がなかったとき
- 2 家事や育児や介護で時間がとれなかったとき
- 3 講座や教室などが開かれる時間が自分の都合にあわなかったとき
- 4 希望する学びの内容がなかったとき
- 5 一緒に学習する仲間が見つからないとき
- 6 施設が身近になかったとき
- 7 託児室やプレールームなどが準備されていなかったとき
- 8 学びや活動に関する情報が手に入らなかったとき
- 9 学びや活動に関する情報の入手先がわからなかったとき
- 10 家族や職場の理解や協力が得られなかったとき
- 11 学びや活動に必要な費用がなかったとき
- 12 新型コロナウイルス感染症への不安があるとき
- 13 その他（
- 14 学びや活動をすることに興味がない
- 15 特に理由はない

(ここからは全員お答えください)

問9 あなたが今後、学習活動をする場合、次の1から4のそれぞれについて、どの程度
関心がありますか？(それぞれ4段階のうち1つに○)

- 1 仕事に関する学習活動(仕事をする上で役に立つことや転職のためなど)
とてもしてみたい・ ややしてみたい・ あまりしたくない・ まったくしたくない
- 2 趣味に関する学習活動(習い事や練習、スポーツなど)
とてもしてみたい・ ややしてみたい・ あまりしたくない・ まったくしたくない
- 3 生活に関する学習活動(料理教室や健康、子育てに関する事など)
とてもしてみたい・ ややしてみたい・ あまりしたくない・ まったくしたくない
- 4 社会貢献やボランティアに関する学習活動(地域の行事や子ども、障害者との交流など)
とてもしてみたい・ ややしてみたい・ あまりしたくない・ まったくしたくない

問10 あなたは、仕事以外のボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動などに
関心がありますか？(いずれか1つに○)

- 1 非常に関心がある
- 2 ある程度関心がある
- 3 あまり関心がない
- 4 まったく関心がない

問11 あなたは、仕事以外のボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動などを
していますか？(いずれか1つに○)

- 1 している → (問12を回答し、その後問14に進む)
- 2 していない → (問13へ飛んで回答し、その後問14に進む)

問12 あなたは、仕事以外で、どのようなボランティアや地域での活動、社会の役に立
つ活動をしていますか？(あてはまるものすべてに○)

- 1 高齢者の手助けなどの福祉に関する活動
- 2 障害のある方の手助けなどの福祉に関する活動
- 3 生活困窮者の支援などの福祉に関する活動
- 4 家庭教育・子育て支援・読み聞かせ活動
- 5 男女共同参画に関することや人権を守る活動
- 6 子どもの健全育成やPTA活動・学校を支援する活動
- 7 地域づくり・まちづくりに関する活動
- 8 文化、芸術、伝統芸能、観光に関する活動
- 9 スポーツ、レクリエーションに関する活動
- 10 清掃、環境保護・保全活動
- 11 町内会・自治会・消防団などの地域での活動
- 12 防犯・交通安全運動
- 13 災害救援・安全・防災に関する活動
- 14 地域のお祭りや行事
- 15 国際交流・協力・親善活動
- 16 その他 ()

問13

あなたがボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動に参加していない理由は何ですか？（あてはまるものすべてに○）

- 1 仕事が忙しい
- 2 家庭のことで忙しい
- 3 友人や知人などからの誘いが無い
- 4 人間関係や近所づきあいを広げたくない
- 5 何かしらの責任や役目を負わされたくない
- 6 広報やチラシなどの情報が届かない（見逃している）
- 7 近くに興味のある活動が無い
- 8 そもそもボランティアや地域活動、社会貢献活動に興味がない
- 9 その他（ ）

（ここからは全員お答えください）

問14

あなたは 今後どのようなボランティアや地域での活動、社会の役に立つ活動に参加してみたいですか？（あてはまるものすべてに○）

- 1 高齢者の手助けなどの福祉に関する活動
- 2 障害おある方の手助けなどの福祉に関する活動
- 3 生活困窮者の支援などの福祉に関する活動
- 4 家庭教育・子育て支援・読み聞かせ活動
- 5 男女共同参画に関することや人権をまもる活動
- 6 子どもの健全育成やPTA活動・学校を支援する活動
- 7 地域づくり・まちづくりに関する活動
- 8 文化、芸術、伝統芸能、観光に関する活動
- 9 スポーツ、レクリエーションに関する活動
- 10 清掃、環境保護・保全活動
- 11 町内会・自治会・消防団などの地域での活動
- 12 防犯・交通安全運動
- 13 災害救援・安全・防災に関する活動
- 14 地域のお祭りや行事
- 15 国際交流・協力・親善活動
- 16 その他（ ）

問15

あなたは、自分と地域の人たちとのつながりは強いと思いますか？

（いずれか1つに○）

- 1 強いと思う
- 2 どちらかといえば、強いと思う
- 3 どちらかといえば、弱いと思う
- 4 弱いと思う
- 5 わからない

問16 あなたは、貧しい人や弱い立場の人がなくなる原因は何だと考えますか？
(いずれか1つに○)

- | | |
|---|----------------------|
| 1 | 社会福祉に関する自治体の予算が少ないこと |
| 2 | 隣近所が無関心であること |
| 3 | 社会の助け合いの意識が不足していること |
| 4 | 個人の努力が不足していること |
| 5 | その他 () |
| 6 | わからない |

問17 あなたは、次の1から4に関して、どこから情報を手に入れていますか？
(よく利用する～ほとんど利用しないのどれか一つに○)

1 仕事に役立つ学び情報

	よく利用する	時々利用する	あまり利用しない	ほとんど利用しない
テレビ・ラジオ				
新聞・チラシ・フリーペーパー				
行政機関の広報誌、回覧板				
ホームページ、LINE や Facebook などの SNS				
友人や知人の口コミ				

2 趣味に役立つ学び情報

	よく利用する	時々利用する	あまり利用しない	ほとんど利用しない
テレビ・ラジオ				
新聞・チラシ・フリーペーパー				
行政機関の広報誌、回覧板				
ホームページ、LINE や Facebook などの SNS				
友人や知人の口コミ				

3 生活に役立つ学び情報

	よく利用する	時々利用する	あまり利用しない	ほとんど利用しない
テレビ・ラジオ				
新聞・チラシ・フリーペーパー				
行政機関の広報誌、回覧板				
ホームページ、LINE や Facebook などの SNS				
友人や知人の口コミ				

4 ボランティアに役立つ情報

	よく利用する	時々利用する	あまり利用しない	ほとんど利用しない
テレビ・ラジオ				
新聞・チラシ・フリーペーパー				
行政機関の広報誌、回覧板				
ホームページ、LINE や Facebook などの SNS				
友人や知人の口コミ				

問18 新しい生活様式が求められている現在、どんなことを始めてみたいですか？

(あてはまるものすべてに○)

- 1 家の中で過ごす時間を充実させるための活動（家の片づけなど）
- 2 健康の維持・増進のための活動
- 3 オンラインを活用した他者との交流や情報発信（Zoom、YouTube など）
- 4 教養を高めるための学習活動
- 5 資格取得や仕事のスキルアップ
- 6 ボランティアや地域活動・社会貢献活動
- 7 始めてみたいものがない

問19 ビデオ通話やWeb 会議システム（Zoom、Skype 等）を使用したことがありますか？

(いずれか1つに○)

- 1 新型コロナウイルス感染症の拡大前から使用していた
- 2 新型コロナウイルス感染症の拡大後使用するようになった
- 3 使用したことがない

問20 今後、ビデオ通話やWeb 会議システム（Zoom、Skype 等）を使用したオンライン講座を受講したいですか？ (いずれか1つに○)

- 1 受講したい
- 2 受講したいが、環境が整わない（Wi-Fi、パソコンなど）
- 3 受講したくない

問21 アンケート全般を通して、生涯学習や社会教育に関して、お気づきの点などをご自由にお書きください。

大変お疲れ様でした。調査はこれで終了です。

お手数をおかけいたしますが、記入の終わった調査用紙は同封の返信用封筒に入れ、**8月6日まで**にポストへ投かんしていただくようお願いいたします。(切手は不要です)

ご協力いただき、誠にありがとうございました。

令和3年度 生涯学習・社会教育総合調査研究事業
生涯学習に関する県民の意識調査 報告書

発行年月日 令和4年3月

編集・発行 青森県教育庁生涯学習課

〒030-8540 青森市長島一丁目1番1号

TEL 017-734-9889 (内 3138) FAX 017-734-8272

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/>

[e-shogai/aomorimanabi-e_shogai.html](https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-shogai/aomorimanabi-e_shogai.html)

調査・分析委託先 株式会社サンブラッソ・エイティープイ

〒038-0011 青森市篠田二丁目3番17号

TEL 017-762-7010 FAX 017-762-7011